

令和3年度法務省委託事業  
災害と人権に関するシンポジウム

報 告 書

## 令和3年度法務省委託「災害と人権に関するシンポジウム」実施完了報告

### 1 実施概要

- (1) テーマ： 災害と人権に関するシンポジウム～子どもたちの心の復興～
- (2) 日時： 令和4年1月15日（土）午後1時30分～午後4時10分
- (3) 形式： オンライン（リアルタイム）配信  
コモレ四谷タワーコンファレンス RoomF（東京都新宿区四谷1-6-1  
コモレ四谷 四谷タワー3階）を会場として配信
- (4) 対象者： 一般市民 ※ 参加費無料
- (5) 主催： 法務省、全国人権擁護委員連合会、札幌法務局、札幌人権擁護委員連合会、盛岡地方法務局、岩手県人権擁護委員連合会、仙台法務局、宮城県人権擁護委員連合会、福島地方法務局、福島県人権擁護委員連合会、神戸地方法務局、兵庫県人権擁護委員連合会、熊本地方法務局、熊本県人権擁護委員連合会、公益財団法人人権教育啓発推進センター
- (6) 後援： 中小企業庁、復興庁、内閣府政策統括官（防災担当）、北海道、北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会、岩手県、岩手県教育委員会、盛岡市、盛岡市教育委員会、宮城県、宮城県教育委員会、仙台市、仙台市教育委員会、福島県、福島県教育委員会、福島市、福島市教育委員会、兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、熊本県、熊本県教育委員会、熊本市、熊本市教育委員会、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社（順不同）
- (7) 内容：
  - 開会～主催者挨拶
  - 基調報告「震災を振り返る—あの時できた支援と今後の課題」
    - ・基調報告1 大災害と子どものこころの反応  
福地成（東北医科薬科大学精神科学教室病院准教授、公益社団法人宮城県精神保健福祉協会みやぎ心のケアセンター長）
    - ・基調報告2 「死別を生きる」子どもたちと歩む～グリーフサポートのさんま（時間・空間・仲間）～  
西田正弘（一般財団法人あしなが育英会東北レインボーハウス所長兼心のケア事業部長）
    - ・基調報告3 震災とコロナ災害で共通するもの  
渡辺由美子（認定特定非営利活動法人キッズドア理事長）
    - ・コーディネーター  
安部芳絵（工学院大学教育推進機構准教授、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン理事）
  - パネルディスカッション・質疑応答
  - トークショー
    - ・ゲスト  
巻誠一郎（特定非営利活動法人ユアアクション理事長、元サッカー日本代表）
  - 閉会

### 2 目的

震災等の災害発生時には、住まいの再建やインフラ整備などハード面の復興はもとより、被災者の心の復興も重要な課題となる。

とりわけ、子どもについては、大人に比べて、自分の状態を客観的に把握することが困難であるなど、その特性を理解した上で、心の復興を進める必要がある。

そこで、被災した子どもたちの心理的回復に焦点を当て、震災等の災害に起因する様々な被害に見舞われた子どもたちに必要な支援や心の復興に向けた取組について、専門家から事例や研究結果を聞き、「子どもの被災」という課題に向き合うための知見を共有するとともに、人権の観点から子どもたちの心の復興の在り方について考えることを目的として、本シンポジウムを開催する。

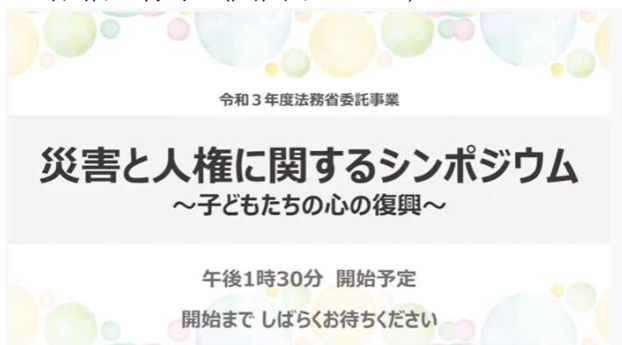
### 3 参加者数等

391人 (YouTube「ユニーク視聴者数」)

※参考：同「視聴回数」665回

同「最大同時視聴者数」176人

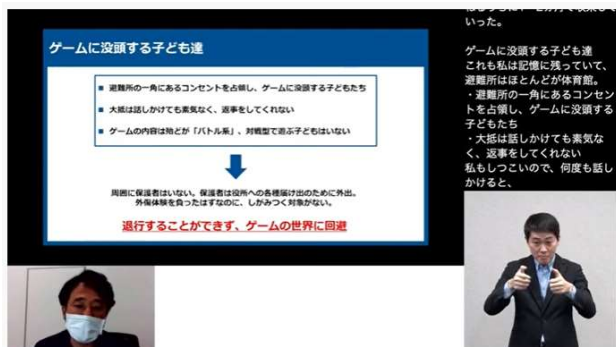
### 4 配信の様子 (画面イメージ)



ライブ配信前：案内



主催者挨拶



基調報告1：福地成

(東北医科薬科大学精神科学教室病院准教授、公益社団法人宮城県精神保健福祉協会みやぎ心のケアセンター長)



基調報告2：西田正弘

(一般財団法人あしなが育英会東北レインボーハウス所長兼心のケア事業部長)



基調報告3：渡辺由美子

(認定特定非営利活動法人キッズドア理事長)



コーディネーター：安部芳絵

(工学院大学教育推進機構准教授、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン理事)



パネルディスカッション



トークショーゲスト：巻誠一郎  
 (特定非営利活動法人ユアアクション理事長、元サッカー日本代表)

[別添]

- ・当日配布資料 (ダウンロード用プログラム)
- ・アンケート集計結果
- ・採録記事 (誌面イメージ)

5 オンライン (アーカイブ配信)

本シンポジウム終了後、YouTube 人権チャンネルにおいて、オンライン (アーカイブ) 配信を実施。(令和4年2月28日(月)の公開から1年間限定)

2022.1.15 令和3年度「災害と人権に関するシンポジウム ～子どもたちの心の復興～」

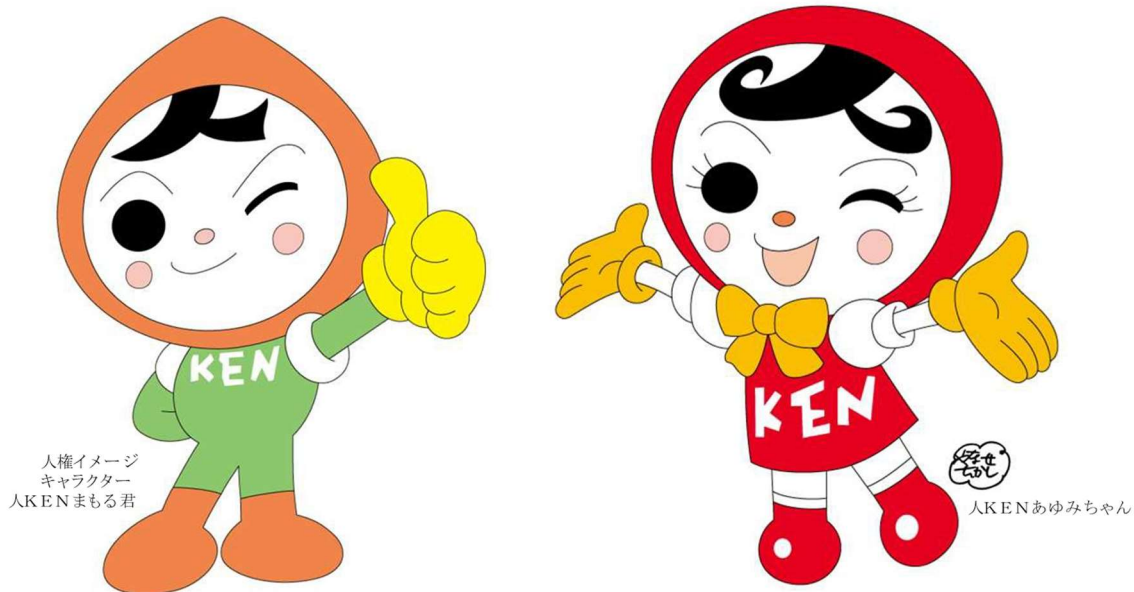
<https://youtu.be/4gEDe9gQ6tk>



令和3年度法務省委託

# 災害と人権に関するシンポジウム

～子どもたちの心の復興～



## ■日時

令和4年1月15日（土） 午後1時30分～午後4時00分（予定）

※オンライン配信

## ■主催

法務省、全国人権擁護委員連合会、札幌法務局、札幌人権擁護委員連合会、盛岡地方法務局、岩手県人権擁護委員連合会、仙台法務局、宮城県人権擁護委員連合会、福島地方法務局、福島県人権擁護委員連合会、神戸地方法務局、兵庫県人権擁護委員連合会、熊本地方法務局、熊本県人権擁護委員連合会、公益財団法人人権教育啓発推進センター

## ■後援

中小企業庁、復興庁、内閣府政策統括官（防災担当）、北海道、北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会、岩手県、岩手県教育委員会、盛岡市、盛岡市教育委員会、宮城県、宮城県教育委員会、仙台市、仙台市教育委員会、福島県、福島県教育委員会、福島市、福島市教育委員会、兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、熊本県、熊本県教育委員会、熊本市、熊本市教育委員会、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社（順不同）

## 目 次

● タイムスケジュール .....	2
● 基調報告 / パネルディスカッション 登壇者プロフィールと資料	
○ 基調報告/パネリスト1 福地成 .....	3
○ 基調報告/パネリスト2 西田正弘 .....	13
○ 基調報告/パネリスト3 渡辺由美子.....	31
○ コーディネーター 安部芳絵.....	40
● トークショー 特別ゲストプロフィール	
○ 巻誠一郎 .....	44
● YouTube での人権啓発関連映像の配信について .....	45
● 人権ライブラリーの御案内 .....	46

### 本シンポジウムの目的

震災等の災害発生時には、住まいの再建やインフラ整備などハード面の復興はもとより、被災者が誰ひとり取り残されることのないよう、その心の復興も重要な課題となります。特に子どもについては、大人に比べて、自分の状態を客観的に把握することが困難であるなど、その特性を理解して人権に配慮した心の復興を進める必要があります。

本シンポジウムでは、被災した子どもたちの心理的回復に焦点を当て、その支援等に取り組んできた方々のお話を聴きながら、人権的観点から子どもたちの心の復興の在り方について考えます。

## タイムスケジュール

- 13:30~13:35 開会・主催者挨拶
- 13:35~14:40 基調報告  
「震災を振り返る—あの時できた支援と今後の課題」
- 報告1：大災害と子どものこころの反応  
福地成（東北医科薬科大学精神科学教室病院准教授、公益社団法人宮城県精神保健福祉協会みやぎ心のケアセンター長）
  - 報告2：「死別を生きる」子どもたちと歩む  
～グリーフサポートのさんま（時間・空間・仲間）～  
西田正弘（一般財団法人あしなが育英会東北レインボーハウス所長兼心のケア事業部長）
  - 報告3：震災を振り返る あの時できた支援と今後の課題  
～震災とコロナ災害で共通するもの～  
渡辺由美子（認定特定非営利活動法人キッズドア理事長）
  - コーディネーター  
安部芳絵（工学院大学教育推進機構准教授、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン理事）
- 14:40~14:50 休憩
- 14:50~15:25 パネルディスカッション・質疑応答  
「心の復興に向けて」
- パネリスト： 福地成、西田正弘、渡辺由美子
  - コーディネーター： 安部芳絵
- 15:25~15:28 舞台調整
- 15:28~15:58 トークショー
- 特別ゲスト  
巻誠一郎（特定非営利活動法人ユアアクション理事長、元サッカー日本代表）
- 16:00 閉会

● 本シンポジウム終了後、アンケートへの御協力をお願いいたします



Web アンケートフォーム

<https://forms.gle/S1s3PDirdpbJZMKT7>

# [ 基調報告 ]

## 報告 1

### 大災害と子どものこころの反応

ふくち なる  
福地 成



東北医科薬科大学精神科学教室病院准教授、

公益社団法人宮城県精神保健福祉協会みやぎ心のケアセンター長

#### 【略歴】

青森県と北海道にて小児科医として勤務。主に地域の乳幼児健診、子どもの発達障害臨床に従事した。その後、宮城県にて精神科医として精神科救急、地域精神保健に従事。東北大学大学院では公衆衛生学教室にて、自殺の疫学・予防の研究を行った。

平成23年12月より、震災復興に特化した「みやぎ心のケアセンター」に勤務。宮城県を中心として被災地の訪問、各種の普及啓発活動、地域支援者へのスーパーバイズなどを行っている。令和3年4月より現職。



東北医科薬科大学

<https://www.tohoku-mpu.ac.jp/>



公益社団法人宮城県精神保健福祉協会

みやぎ心のケアセンター

<http://miyagi-kokoro.org/>

2022.1.15 災害と人権に関するシンポジウム～こどもたちの心の復興～

# 大災害と子どもたちのこころの反応

東北医科薬科大学医学部 精神科学教室 福地 成

## お話しの流れ

1. 災害直後の反応
2. 数年後の反応
3. 地域のつながりで支える子どもの育ち



# 災害直後の反応

## 最も多かった相談

- **子どもがえり**：保護者にベタベタする、一人で行動できない（トイレ、入浴、就寝、暗い場所へ行く）
- **びっくり反応**：大きな音への反応、余震への過剰反応
- **過剰な備え**：懐中電灯を枕元に置く、パジャマで眠れない



「異常なできごとにおける正常な反応」として説明、リーフレットを配布した。  
ていねいに面接や家庭訪問を重ねるうちに1~2カ月で収束していった。



## ゲームに没頭する子ども達

- 避難所の一角にあるコンセントを占領し、ゲームに没頭する子どもたち
- 大抵は話しかけても素気なく、返事をしてくれない
- ゲームの内容は殆どが「バトル系」、対戦型で遊ぶ子どもはいない



周囲に保護者はいない。保護者は役所への各種届け出のために外出。  
外傷体験を負ったはずなのに、しがみつく対象がない。

**退行することができず、ゲームの世界に回避**

## 症例提示

症例：7歳（小2）、女児

主訴：「雨をこわがる」

震災時状況：宮城県内陸の地盤が固い地域に居住。被害は最小、ライフラインの復旧は早く、避難所の利用はない。そのため、早い時期よりテレビを見ることができ、津波の映像も見ていた。

現病歴：震災直後より、雨天時に外出ができなくなった。雨が降ってくると家族に窓やドアを閉めるように強要するようになった。次第に混乱は深まり、泣き叫んで家族に暴力を振るうようになった。学校では、校庭に水たまりがあると遊ぶことができなくなった。

## 心理的デブリーフィング

つらい出来事後、できるだけ早くに介入し、体験の内容に踏み込んで感情の表出を促すこと

- 元々は消防士のPTSDの予防法としてアメリカで開発されたもの
- 1995年の阪神・淡路大震災では有効と信じられていた



**現在では有害もしくは無効とされている**

# 数年後の反応

## 2-3年後の子どもたち

お小遣いを計画的に使うことができなくなりました。

災害を経験して、転居・転校した子どもの方が心の健康がよくないみたい。



## 4-5年後の子どもたち



いまころになって、小学校低学年の子どもたちが震災のことを話すんです。フラッシュバックを起こしているんですかね。

あの子、あんなに頑張っていたのに最近どうしたんだろう。元気がないんです。



子どもの反応を考える上で、**時間軸**が最も大事だと思う

# 地域のつながりで支える子どもの育ち

## 震災後に生まれた子どもたち

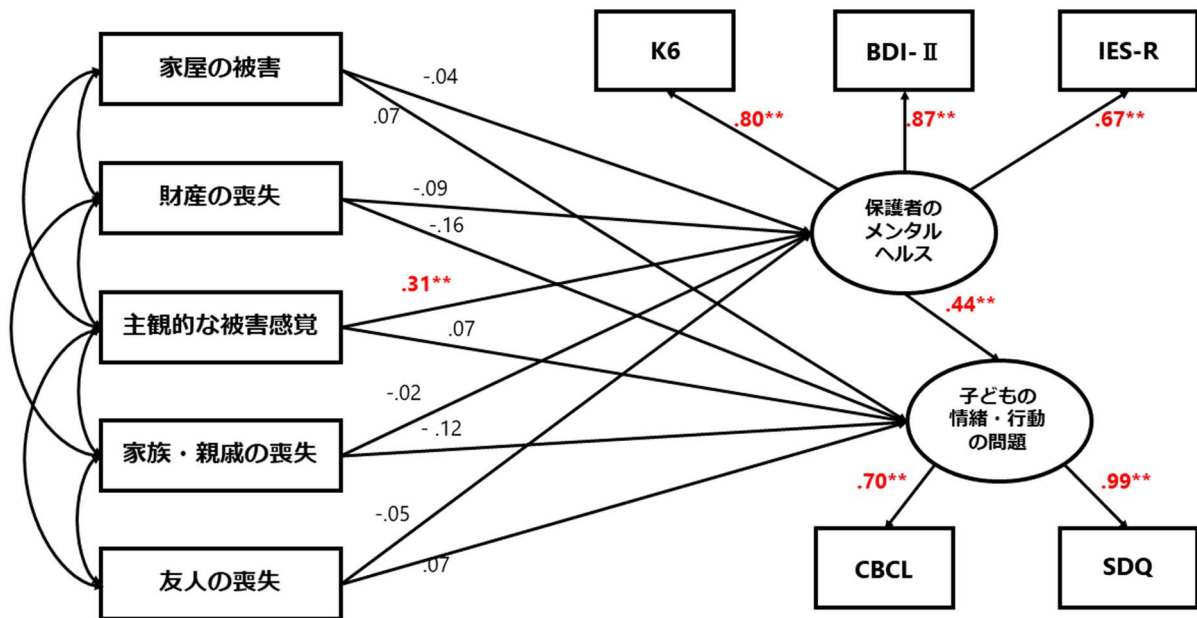
乳幼児健診で、『気になる』  
子どもが増えているんです。  
落ち着きない子が多いかな。

なんであの学年の子どもは  
虫歯が多いんですかね。  
忘れ物も多いかな・・・。

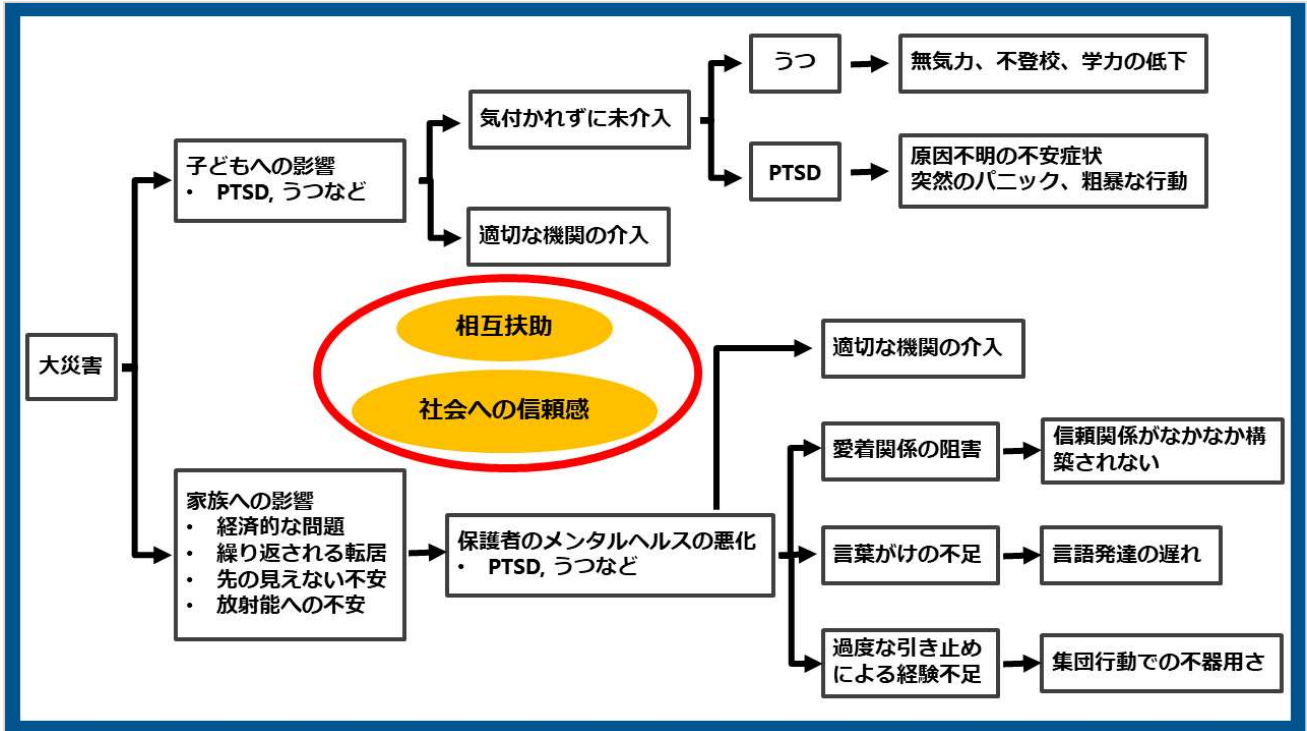


## みちのくこどもコホート

- 東北3県合同で子ども健康調査プロジェクトを行っています。
- 現在小学校4年生に在籍する子どもを対象に、長期間成長発達を追跡しています。
- 大災害後に出生した子ども達の長期的な発達を確認する目的です。
- 宮城県では4市町村にご協力頂いています。



$\chi^2 = 122.95$ , CFI = .928, RMSEA = .058  
<sup>a</sup> mediated variables is excluded in this figure.



## Health Promotion

子どもの認知発達の遅れや行動の問題

保護者（特に母親）のメンタルヘルス

家庭と地域のつながり



## 住民による壁画（宮城県山元町）



ご清聴  
ありがとうございました



# [ 基調報告 ]

## 報告 2

「死別を生きる」子どもたちと歩む

～グリーフサポートのさんま（時間・空間・仲間）～

にしだ まさひろ  
西田 正弘



一般財団法人あしなが育英会

東北レインボーハウス所長兼心のケア事業部長

### 【略歴】

平成9年からあしなが育英会勤務。高校生、大学生の合宿ケア「つどい」などを担当。平成12年から自死遺児支援に取り組み、自殺で親を失った子どもたちが胸の内を綴る手記集の編集に関わる。平成27年より東北レインボーハウス所長。



あしなが育英会・東北レインボーハウス

<https://www.ashinaga.org/media/tag/東北レインボーハウス/>

# 「死別を生きる」子どもたちと歩む

～グリーフサポートのさんま（時間・空間・仲間）～

あしなが育英会・東北レインボーハウス

## 遺児支援の歴史

- 1970年代、交通遺児支援(奨学金、交流会)
- 1980年代後半、災害遺児支援(奨学金、交流会)
- 1990年代前半、病気遺児支援(奨学金、交流会)
- 1995年、阪神・淡路大震災(573人)→1999年神戸にレインボーハウス(RH)建設(米国ダギーセンターに学ぶ)
- 2000年自死遺児支援開始→2006東京にRH建設
- 2010年仙台グリーフケア研究会「仙台でコミュニティモデルの遺児対象グリーフサポートプログラム」開始
- 2011年3.11 東日本大震災(2083人)→2011年5月仙台グリーフケア研究会とあしなが育英会が協働でプログラム開始。
- 2014年仙台・石巻・陸前高田にレインボーハウス建設
- 子どものグリーフサポートの場所全国に約30か所  
\* 子どもの世界から「さんま(三間)、時間・空間・仲間」が失われた。  
高山英男氏、現代子どもセンター、2015年

- 1995年 阪神・淡路大震災
- 2004年 新潟県中越地震
- 2011年 東日本大震災
- 2016年 熊本地震
- \* 2021年 震度5前後の地震が日本各地で発生している
- \* 2020年 日本人の死因に新型コロナウイルス死が入った。
- \* コロナ禍で自死(自殺)者が増加

#### 事業所



神戸虹の心豊レインボーハウス (神戸)



あしなが心豊レインボーハウス (東京)



仙台レインボーハウス



石巻レインボーハウス



陸前高田レインボーハウス



## 阪神・淡路大震災

ローラー調査（家庭と避難所訪問）・街頭募金・つどい開催

- 95年2月から、震災で親を亡くした子どもたちを捜し出すため、犠牲者名簿をもとに一軒一軒訪問した（ローラー調査）
- ローラー調査には遺児学生と市民ボランティアのべ881人が参加。
- 34日間で504人の遺児を確認。その後学校などの協力で573人の遺児が判明した（震災遺児数として確定）。
- 2月18日、19日震災遺児激励募金実施。1億1千677万円。
- 95年春 有馬温泉のつどい（宿泊交流会）開催
- 震災遺児一人に20万2千円を送金（6月）
- 95年夏休み 海水浴「かすみのつどい」開催（黒い虹）
- 95年冬 クリスマスのつどい（村山富市首相参加）
- 96年1月「亡き愛する人を偲び話し合う会」（追悼交流会）開催



## ダギーセンター(1982年設立)の基本信念

- 死別後の心の痛みは、おとなにとって自然なだけでなく、子どもにとっても、愛する人を失ったことへの**自然な反応**である。(病気ではない)
- ひとりひとりの中に自分を癒す能力が**自然に備わっている**。
- 死別により心を痛める期間や強さには、人それぞれの**独自性**がある。
- 暖かい思いやり(caring)と受容(acceptance)が癒しの過程ではよい**サポート**になる。
- 訓練を受けた**ファシリテーター**という大人と一緒に遊ぶ、子どもの「あのね」に应答する、見守る





## 調査から(病気、自死など)

- \* あしなが育英会2584世帯(母子65%、障害者20%、父子10%、他5%)調査(2011年11月)から(複数回答)
- 「暗い表情のときが増えた」54%、「怒りっぽくなった」21%、「無気力になった」15%。「不登校、登校をいやがった」26%、「カウンセリングや精神科など通院」21%
- 保護者＝「気分が沈み気が晴れない」34%  
「絶望的」13%、「自殺や心中を考えた」11%
- \* コロナ禍2021年9月調査(高校奨学生保護者3994人回答)、手取り月収106,485円(2018年9月比10,500円減少)、一般労働者の約6割まで落ち込んでいる。
- 死別による自尊心の低下、QOL(現在の生活の質)の低下がQOF(よりよい未来の質)の低下につながる

## グリーフは自然なもの、現在進行形

- グリーフ(悲嘆・愛惜)は愛情の証であり自然な感情である。
- グリーフは亡くなった人との関わり(いつ、誰を、どのように亡くしたか)によって反応は個人差がある・・・家族の中でも違いがある。「一人ひとり違う、それぞれ」「こうあるべき」という正しい反応はない。子どもの場合「死を理解する年齢」か「状況を伝えられたか」が影響
- グリーフワーク＝「本人が故人へのとらわれから解放され(故人とのつながり直しをし)、故人のいない環境に再適応し、新しい内外の関係を形成すること」と言われている。
- グリーフは「現在進行形、誰かが代わられるものではない」

## 東日本大震災

- 自らも死にかけたという体験(安心、安全の感覚)
- 家族の死、友人、地域の人々の死(日々の生活、人生の土台、つながり)
- 失職(経済力、生活の安定感、社会の中の立ち位置)
- 自分の在りか(家屋)の喪失(仮設住宅等への転居、県外避難、なじみのもの、思い出)
- コミュニティの喪失(隣近所、遊び場、見守り、風景、記憶)
- 将来の夢、希望は持続できるか?
- 「いのちのはかなさ」「よるべなさ(引き受け手、受け止め手の不在)」
- これからどうやって生きていこうか?(根源的な問い)
- 「今」さらなる変化(転居、再婚、死別など)が続いている
- 「トラウマ」×「グリーフ」×「ストレス」の複合体験

## 喪失(変化)の分類



12

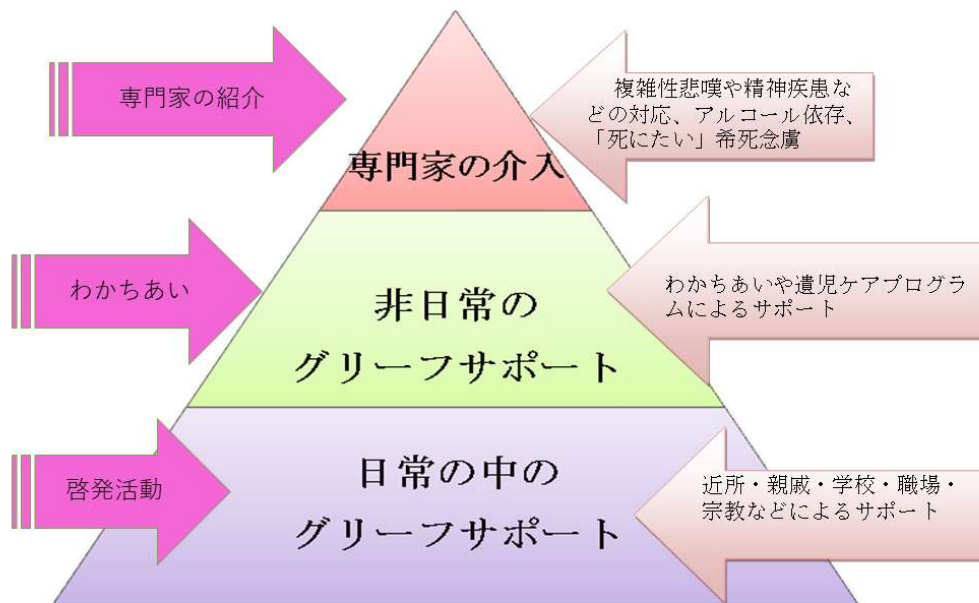
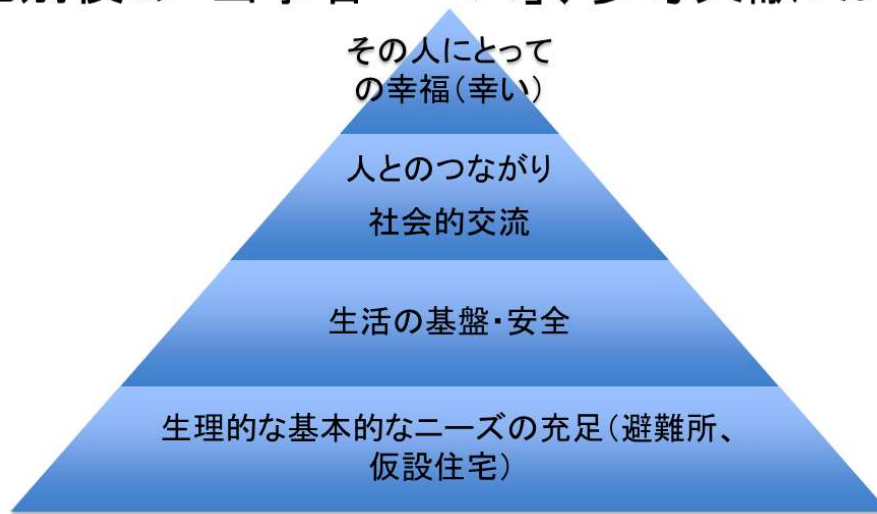
2013年「被災体験」789世帯アンケート  
(遺児は2,083人、行方不明、関連死含む)

- 「心身に何らかの影響を受けている」51.6%
- 「揺れに敏感」33.2%
- 「暗闇を怖がる」12.8%
- 「音に反応する」8.4%
- 「寂しい」67.6%
- 「悲しい」56.7%
- 「納得できない」14.8%
- 「自分のせいで家族が亡くなった」1.9%
- 「生き残ってつらい」1.6%
- 亡くなった家族のことを「あまり話さない」36.5%「まったく話さない」15.1%
- 地震や津波に関する会話「話さない」68.8%

## トラウマ、あいまいな喪失

- トラウマ反応＝「生死に関わる対処能力を超えた、脅威的で、恐怖や戦慄を感じる出来事＝事故にあったときのこと、津波が襲う夢による反応(凍り付く、動けない、過剰に反応する)。」  
→ 安全、安心の確保が第一。ときに、医療的なサポートが必要。
- 生死がはっきりしない喪失(行方不明など)＝「あいまいな喪失」はくぎりがつけにくい。

# 被災後の被災者ニーズ (死別後の「当事者ニーズ」、参考文献7から)



## グリーンサポートプログラム

### ◇ワンデイプログラム

日帰り（3時間半）でのプログラム。

主に「はじまりのわ」「自由の時間」「おはなしの時間」「おわりのわ」で構成。

### ◇つどい

1泊～2泊の宿泊を伴ったプログラム。ワンデイプログラムの内容に加えて「食事」「入浴」「就寝」といった日常生活も行い、子どもたち同士、子どもとファシリテーターの関係性が深まりやすい。「おはなしの時間」もゆっくり時間をとり、よく互いのことを知ることができる。

### ◇野外プログラム

大枠はワンデイプログラムと同様。実施場所が自然を感じられる場所で行う。自然環境によって時間の感じ方や、緊張感など、屋内とは異なる環境の力を感じられる。また、親が亡くなった家庭において、野外での体験は家族で行うことが困難となっていることも多い（グリーンキャンプ）。

## 地域でピアサポートの場を① 時間・空間・仲間

- ピアサポートとは同じような体験をしたもの同士が批判せずお互いを認め合いながら、それぞれ固有の体験談を語り合い、聞き合い、支え合うつながり。誰かと一緒にいながら自分自身でいられる場
- ピア＝同じような体験をした者同士
- シェア＝自分の気持ちに丁寧に触れながら、自分の言葉で語る。その場にいる人の話を聞き合う。
- エンパワー＝比較せず、非難せず、それぞれの歩みを認め合い、指示し、支え合う
- モデル＝誰かの歩み、気の持ち方か考え方を参考にする

グリーンプログラムの構成

子ども



ファシリテーター



ディレクター

運営スタッフ

保護者プログラム



保護者



ファシリテーター

ASHINAGA  
あしなが育英会

10:30~11:30 ファシリテーター プレミーティング  
11:30~12:30 休憩  
12:30~ 待機・受付

は  
じ  
ま  
り

13:00~ 『はじまりのわ』  
環境設定: 「日常」から「非日常」への切り替え  
自己紹介: 誰を、いつ、どのように亡くしたか

ま  
ん  
な  
か

13:20~14:30 じゅうなじかん  
14:30~ おやつなじかん  
14:50~ おはなしなじかん  
15:10~16:10 じゅうなじかん  
16:10~ お片づけ

お  
わ  
り

16:15~ 『おわりのわ』  
どんなふうにご過ごしたかとその感想を話す。  
「非日常」から「日常」への切り替えの時間。

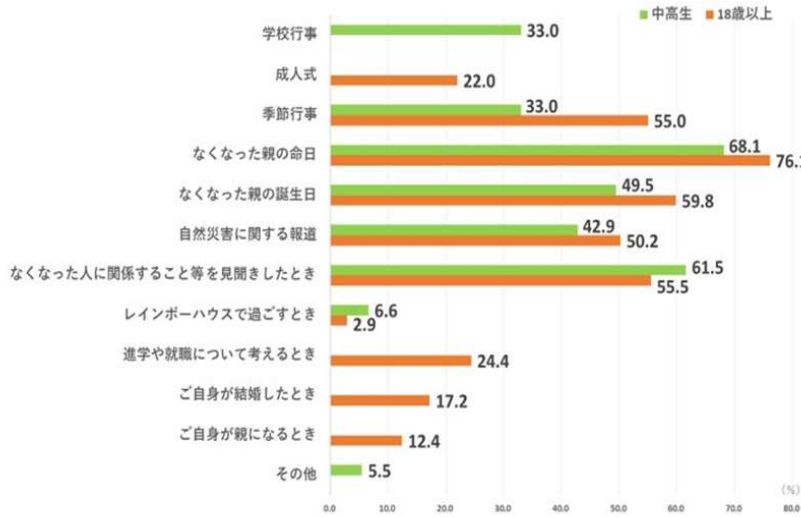
16:30~17:45 ファシリテーター ポストミーティング

ASHINAGA  
あしなが育英会



## 亡くなったもしくは、行方不明の人を思い出すタイミング

2020年10月～11月実施のアンケート調査から

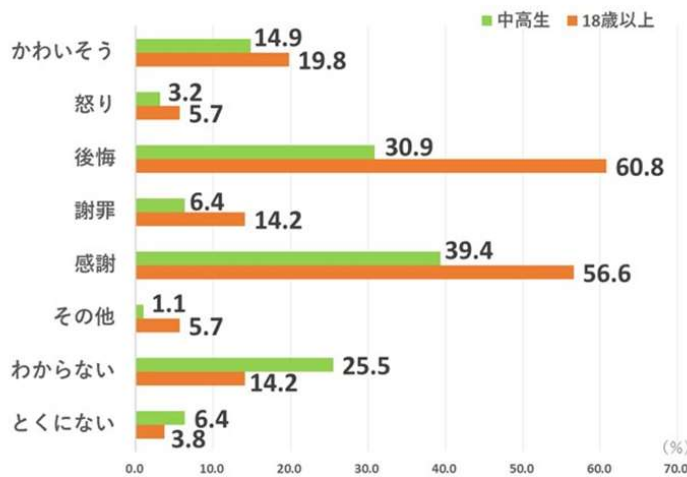


中高生、18歳以上とも最も多かったのは「なくなった親の命日」であった

中高生と18歳以上で比較すると、「季節行事」などで親を思い出すことが18歳以上は顕著に多かった

「あしなが育英会東日本大震災10年遺児保護者アンケート調査 2020年」

## 亡くなったもしくは、行方不明の人に対する気持ち



中高生と比べると、18歳以上で「後悔」と回答した人は倍近くの比率であった

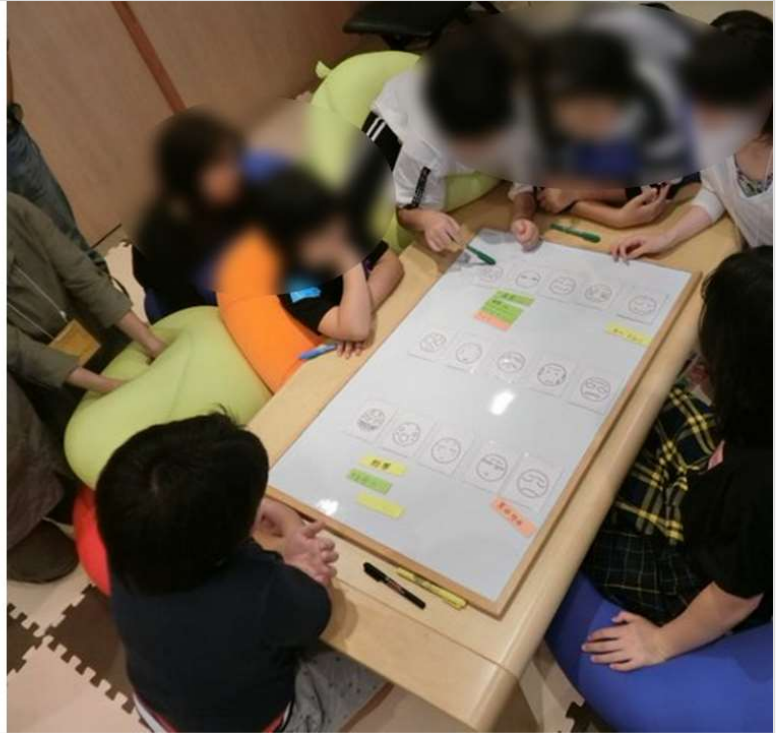
「謝罪」については18歳以上が倍以上の値であった

中高生では、18歳以上に比べると「わからない」と回答する割合が高かった。

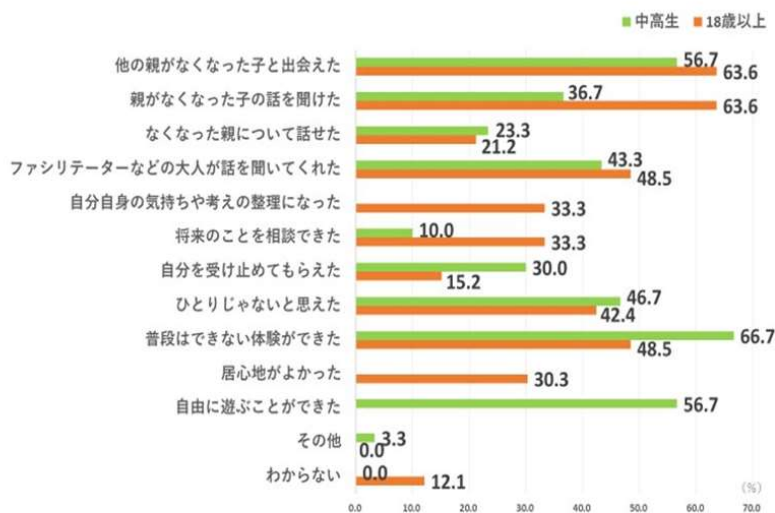
「あしなが育英会東日本大震災10年遺児保護者アンケート調査 2020年」

## 遊びを介して 獲得すること(遊びを通 してのグリーフワーク)

- 表現力、創造性、想像力
  - コミュニケーション能力、主体性、協調性
  - 事実に向き合う力、共有する力や抱える力
  - 満足感、開放感、達成感、期待力
  - 自己肯定感、他者受容
  - 認知機能の発達
- \* 小嶋リベカ氏(資料「遊びの意義」から)



## 様々なプログラムに参加して良かったこと



「ほかの親がなくなった子と出会えた」、  
「大人が話を聞いてくれた」、「ひとりじゃないと思えた」などは中高生、18歳以上の両方で高い値を示した

18歳以上では、「親がなくなった子の話を聞いた」も非常に高い値を示した

中高生では「普段はできない体験ができた」が最も高い値を示した

「あしなが育英会東日本大震災10年遺児保護者アンケート調査 2020年」

## ・ 自尊心

### 社会的自尊心

Social Self Esteem

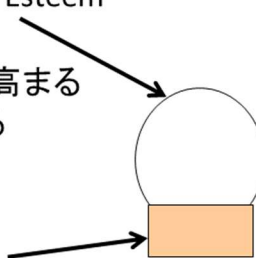
- ・うまくいったり、褒められると高まる
- ・失敗したり叱られると低くなる

### 基本的自尊心

Basic Self Esteem

- ・成功や優越とは無関係
- ・自分をかけがえのない存在として丸ごと認められる

出典 近藤卓「子どもの自尊心をどう育てるか」



4

## 保護者(大人)の時間

- ・保護者は子どもの土台
- ・しかし「子どもと離れる時間」が必要
- ・自分の気持ちに丁寧にふれる
- ・他の人の体験を参考にする(モデル)
- ・レスパイト(一時休息)
- ・さまざまな利用可能な資源情報を得る
- ・子どもを支える土台が強化される



## 地域でピアサポート②

- ピアサポートは孤立化を防ぐ  
(「遠い親戚の集まりのよう」、祝い事など催事のシェア)
- 生活を支える社会保障への橋渡し、さまざまな専門家に足を運んでもらい具体的な問題解決へとつなげる
- 孤立をさせない地域の拠点となり得る
- 支える者同士をつなぐりの場ともなる
- 地域が「存在を認める」ことが居場所をつくる

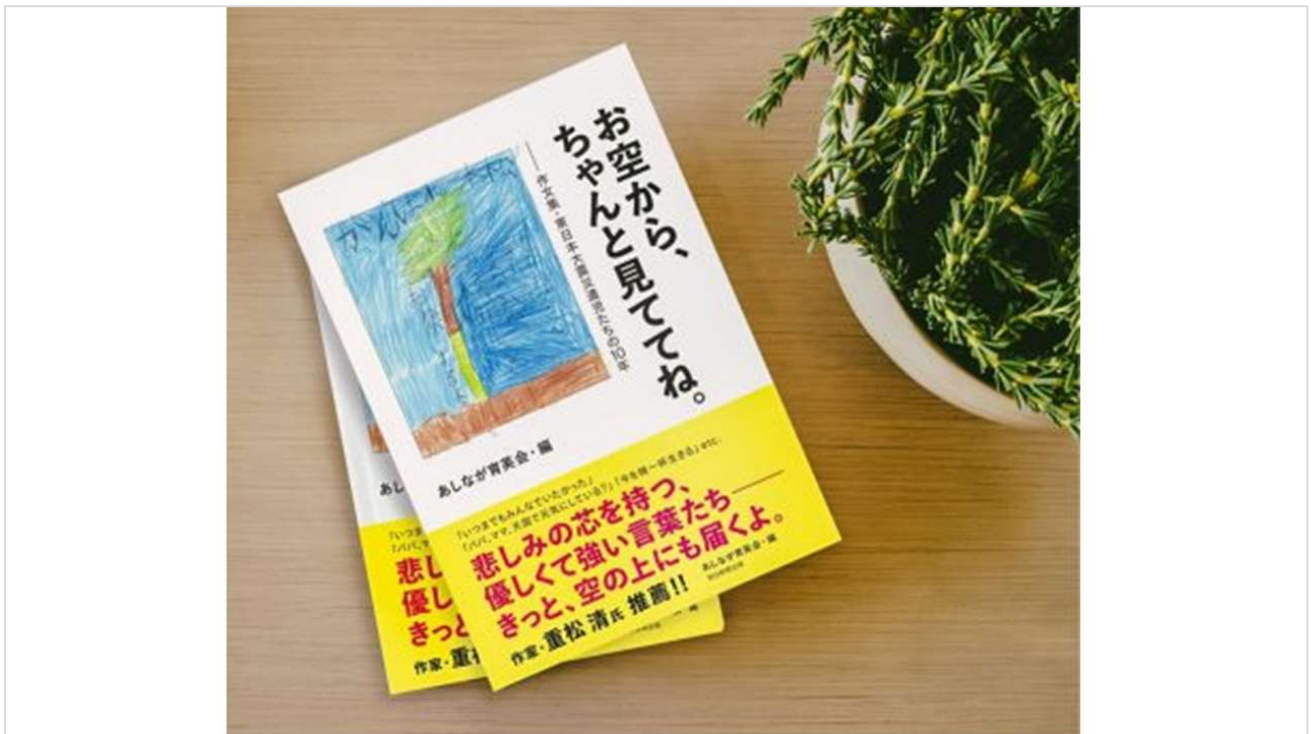
## 人が人にかかわるということ

- 他の人がかかわることで、本人だけでは果たせないことが可能になったり進めたり
- 人は、何かが、もしくは誰かが自分の安全を守ろうとしてくれていると感じる時のみ、人として生きられる(宮地尚子「傷を愛せるか」2010)
- 応答する存在としての「人」
- 「受け取る」人がいて話せる
- 「話す」→「放す」→隙間が生まれる→新しいこと、知らないことが入る可能性が高まる→感じ方、考え方が変わる→「居つき」からの解放→これまでの物語の語り直し→これからの人生へ

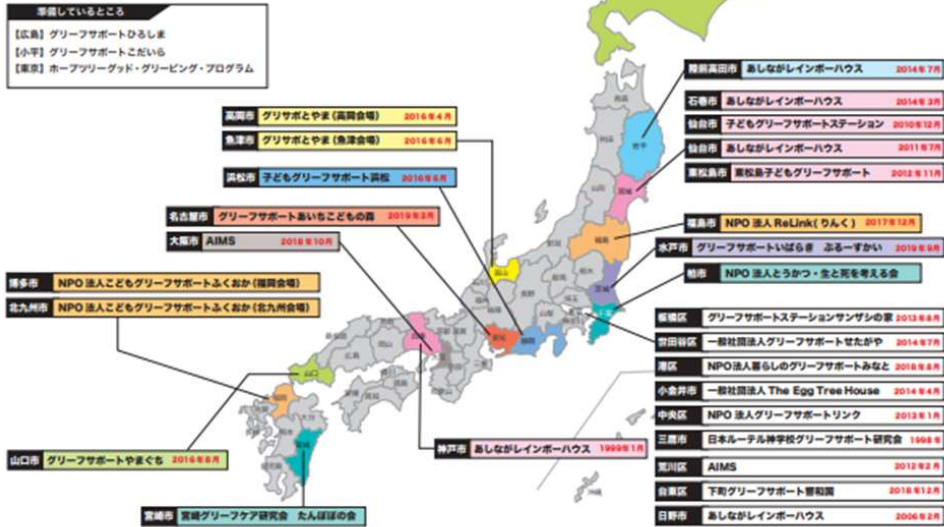


## 「支える」ことのゴールは？ 遺されて「いかに生きるか？」を共に

- 「安心・安全の感覚」の再構築
- 自殺に追い込まれないように
- 自分らしい生活が送れるように
- 人間関係が(できるだけ)スムーズになるように
- 楽しみごとができるように
- 困った時は「助けて」といえるように
- ひとりじゃないと実感がある
- 新しいつながりをつくれるように
- 将来の可能性を狭くしない、しぼませない
- 自尊心を損なわないように



## 子ども向け グリーフサポート活動を実施している団体



## スリランカでのグリーフサポート (日本から世界へ、「神戸から世界」へ再び)

- 自爆テロ(2019年4月21日)→7月下見、10月プログラム開催
- サルボダヤ(Sarvodaya現地NPO) × あしなが育英会
- あしながのノウハウをスリランカへ→学び、学びほぐす
- 現地の方へのファシリテーター研修  
⇒ 民族、宗教、文化を超えた「まるごと」のかかわり方を提示
- 現地の子どもたちへのグリーフサポートプログラム実施(子ども82人)  
⇒ 安心安全な環境 × 受け止めてくれる大人



## 参考文献

- 1、金吉晴(外傷ストレス関連障害に関する研究会)編集:心的トラウマの理解とケア(第2版). (株)じほう. 東京. 2006.
- 2、坂口幸弘 悲嘆学入門 死別の悲しみを学ぶ 2010 昭和堂
- 3、高橋聡美編著 グリーフケア 死別による悲嘆の援助 2012 メジカルフレンド社
- 4、西村佳哲著 かかわり方のまなび方 2011年 筑摩書房
- 5、自死遺児編集委員会 自殺って言えなかった。2002年 サンマーク出版
- 6、西田正弘、高橋聡美著 死別を体験した子どもによりそう～沈黙と「あのね」の間で 2013年 梨の木舎
- 7、「災害とレジリエンス」瀬藤乃理子、石井千賀子(保健の科学58巻第11号 2016年11月)

# [ 基調報告 ]

## 報告3

### 震災を振り返るあの時できた支援と今後の課題 ～震災とコロナ災害で共通するもの～

わたなべ ゆみこ  
渡辺 由美子



認定特定非営利活動法人キッズドア理事長

#### 【略歴】

大手百貨店、出版社を経て、フリーランスのマーケティングプランナーとして活躍。

配偶者の転勤に伴い一年間イギリスに移住し、「社会全体で子どもを育てる」ことを体験する。平成19年任意団体キッズドアを立ち上げ、平成21年NPO法人化。子どもへの学習支援や居場所運営に加え、令和2年より新型コロナウイルス感染症の影響を受けた日本全国の困窮子育て家庭への支援を開始。日本の全ての子どもが夢と希望を持てる社会を目指し、活動を広げている。

平成28年第4回日経ソーシャルイニシアティブ大賞国内部門ファイナリストに選ばれる。内閣府 子供の貧困対策に関する有識者会議 構成員。厚生労働省 社会保障審議会・生活困窮者自立支援及び生活保護部会委員。一般社団法人全国子どもの貧困・教育支援団体協議会副代表理事。



認定特定非営利活動法人キッズドア

<https://kidsdoor.net/>



災害と人権に関するシンポジウム

## 震災を振り返る あの時できた支援と今後の課題

# 震災とコロナ災害で共通するもの

認定NPO法人キッズドア 理事長 渡辺由美子

### 団体概要 **認定NPO法人キッズドア**

キッズドアは、貧困に苦しむ日本の子どもたちの社会へのドアを開けるべく、多くの大学生・社会人ボランティアと共に、子どもの教育支援に特化した活動を展開しています。

KIDSDO R  
認定NPO キッズドア

キッズドアについてはこちら  
お問い合わせ

寄付する

活動したい

お問い合わせ



### 理事長 渡辺由美子 プロフィール

2007年任意団体キッズドアを立ち上げる。  
2009年特定非営利活動法人キッズドアを設立。  
内閣府子どもの貧困対策有識者会議構成員  
内閣府子どもの未来応援国民運動発起人  
厚生労働省生活困窮者自立支援及び生活保護部会委員  
全国子どもの貧困・教育支援団体協議会副代表理事  
著書：子どもの貧困 未来へつなぐためにできること  
(水曜社/2018年5月)

高校進学者数  
**184人**

初めての受験に加えて、休校による勉強の遅れもあり中学3年生は大きな不安を抱えています。しかしボランティアやスタッフが支えられ今年も184名の中学3年生が高校へと進学しました。  
※キッズドアで高校進学指導を受けた184名の中学3年生が対象。

私立高校進学者  
**59人**

公立高校進学者  
**125人**

生徒数合計  
**1498人**

小学生 **211人**  
中学生 **711人**  
高校生世代 **576人**

コロナ禍の中でも小学生から高校生世代まで多くの生徒がキッズドアの学習会に参加しました。オンライン学習会なども盛り上がりも所々に限らず、様々な形で生徒が学習会に参加することができました。

大学、専門学校進学者数  
**60人**

東京外国語大学、山形大学、明治大学、東洋大学、大正大学など

旅行や休校だけでなく、受験時期の大きな変更により受験は予定の思いを招いたまま受験に臨みました。キッズドアでは勉強を教えるだけでなく、正しい受験情報を伝えることで生徒の大学受験をサポートしました。

年間学習会開催回数  
**4,881回**

緊急事態宣言下でもオンラインで学習支援を継続し、4,881回もの学習支援を今年も行うことができました。  
感染症対策を行ったうえで、生徒が安心して学習できる学習会を開催しています。

数字でわかる  
**2020キッズドア**

2020年度も多くの方に支えられ、キッズドアは活動を行うことができました。さらに2020年度のキッズドアの活動・結果の中でも特に印象的なものを数字化して表しています。

ご協力いただいた企業や団体  
**227団体**

多くの団体の協力により、キッズドアの活動は進められています。寄付だけでなく、プロボノや物資提供などのご支援が活動の成り立ちを支えています。

企業 **212社**  
行政 **15団体**

ファミリーサポート物資 & 情報 & 就労支援対象者数  
**34,182名**

コロナ禍でスタートした「ファミリーサポート」では、全国のご家庭を対象に食料や学習情報の提供に加えて、就労支援を行いました。支援した人数は34,182名に上りました。

拠点数  
**74箇所**

東京にとどまらず千葉や東北、そして今年からは地元でも学習会は開催されました。勉強を学ぶ場だけでなくコロナ禍で行き場のない生徒の居場所としても開かれています。

メディア掲載数  
**93回**

ボランティア人数  
**748人**

大学生から一般社会人、専断の方まで今年も多くボランティアが活躍のロールモデルとして活躍しました。オンライン学習会では日本各地からボランティアが参加しています。

今年も新聞、ラジオ、雑誌、テレビなど多くのメディアにキッズドアの活動を掲載していただきました。コロナ禍での生徒や保護者の現状をこれからも伝えていきます。

2011年度の活動

子どもの心のケアの小冊子 (JKA)  
※2000冊の増刷と配布  
(日本ユニセフ協会)



岩手県釜石市 教育委員会  
「高校進学準備ゼミ」

気仙沼市 大島中学校  
「高校進学準備ゼミ」

南三陸町 あおぞら教室 (避難所)  
戸倉小学校「放課後クラブ」  
戸倉中学校「高校進学準備ゼミ」  
歌津学童保育、志津川学童保育

仙台市 [タダゼミ] & [ガチゼミ]  
(中学生・高校生 受験対策講座)

会津若松・大熊町・檜葉町  
ふみだす集中ゼミ ※[タダゼミ] & [ガチゼミ]と同じ  
(中学生・高校生 受験対策講座)

東京都 大型避難所での学習室 (4末~6末)  
英語の学習支援等



5

### ■ 3つの形式で学習補助

学習内容に応じて、学習形式を替えて実施しています。なお、集団授業の際も、ボランティア等が隣に座る等して、ノートが取れているかを確認したり、理解が追いついていないようであれば助言します。

個別指導（主に、数学・英語）

集団授業（社会、テスト等）

グループワーク（国語等）



### ■ 必ず学習計画を立てて、進捗を確認する

生徒の得意・不得意を確認テストで把握したうえで、学校の宿題や部活、学校行事、家事手伝い等の予定を確認しながら、どの時間に何の勉強をするのか予定を埋めていきます。

次回参加した時には、予定通りできたかの自己チェックと共に、何が問題で、次はどうしようかを、講師と一緒に考えて予定を組みます。



6



## 震災後の支援ニーズの変化

仮校舎 間借り校舎 統廃合 新校舎 新たな課題  
避難所 仮設住宅 地域の疲弊  
人口流出・学力低下

2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020

緊急支援  
避難所での学習支援  
居場所の運営

東京から発信  
テレビ会議授業

●地域に根付いた復興人材育成  
●東北エリア全体の底上げが必要

補習型学習支援・受験対応

復興人材育成

・OECD東北スクール

・TOMODACHIソフトバンク・リーダーシップ・プログラム

・志翔学舎

・U-18東北次世代リーダーカンファレンス

・U-25東北ソーシャルビジネスコンテスト

仙台・補習型学習支援・受験対応

新たなPTSD

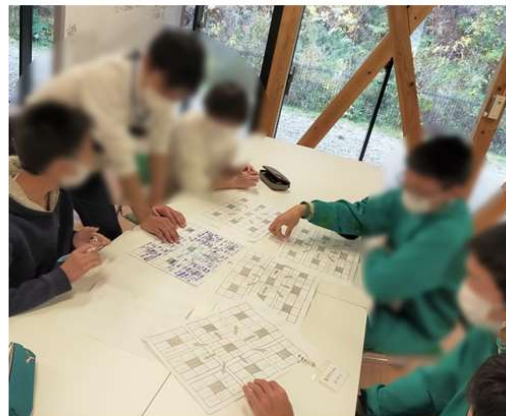
「東北の復興に役立ちたい」

無力感を覚える子どもたち

## 2021年の活動 南三陸町

県立高校内公営塾 志翔学舎

中学3年生対象 高校受験講座 [タダゼミ]



## 2021年の活動 仙台



## コロナ禍での困窮子育て家庭の現状

【2021-2022年未成年緊急食料支援】  
感想やメッセージを  
ご自由にお書きください！

天山の食品を  
ありがとうございます。  
学校が休みになると  
電気代とかも高く感じる。  
食品やお菓子はとて  
たすかります。1人でも  
食べやすいので。給食費も  
早く無料にしてほしいです。  
母は払えなくて大変です。

KIDSDO R  
認定NPO キッズドア

【2021-2022年未成年緊急食料支援】  
感想やメッセージを  
ご自由にお書きください！

沖縄からこんにちは！！  
いつもお世話になっており、とても  
助かっています。  
親子2人ですが、私が精神的な  
病気になってしまい、無職状態なので  
この支援がはずれてしまっている...  
と悩んでいます(笑) 早く回復！！  
これからの応募させて頂きそうです。  
宜しくお願ひ致します。

KIDSDO R  
認定NPO キッズドア

コロナでは発災から2年近くが経っても、まだ子どもが飢えている

## コロナ災害で開始した子育て家庭支援事業「ファミリーサポート」

- ・日本全国の困窮子育て家庭（児童扶養手当、就学援助、住民税非課税、コロナで大幅減収、多子家庭等）に、登録いただき、**情報・物資・就労の支援を行う。**
- ・PCがなくても登録できるように、LINEを使い、スマホのみでも利用できるシステムを導入。2020年10月末から登録を開始し、**現在3500世帯が登録。**

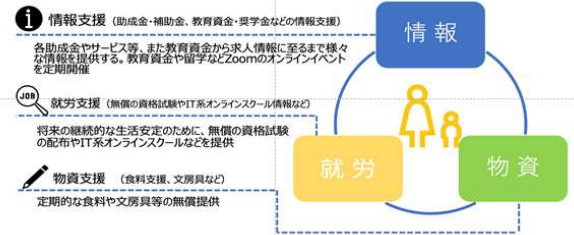
### ■どんなこと

コロナの影響などで経済的に厳しい全国の困窮子育て家庭にデータベースに登録いただき、食品や文具などの物資支援や、奨学金や政府の給付金などの支援情報をお届けする事業です。

### ■コミュニケーション方法

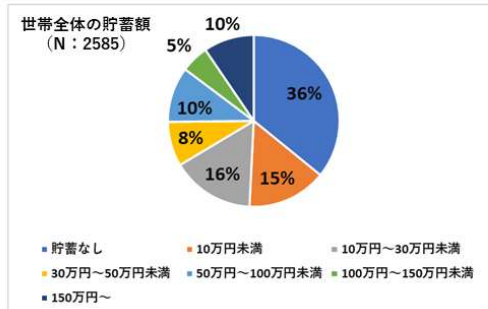
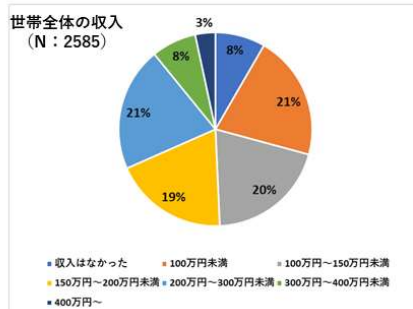


### ■支援内容



## ファミリーサポート登録者の経済状況

- ・1年間の世帯収入は、**100万円未満が最多（21%）**で**200万円未満の家庭は約7割**
- ・貯蓄額についても、**貯蓄なしが36%と最多**。貯蓄がある場合も、**50万円未満が75%**
- ・**約8割が生活必需品の支払い、子どもの学費等が払えなかった経験あり。**

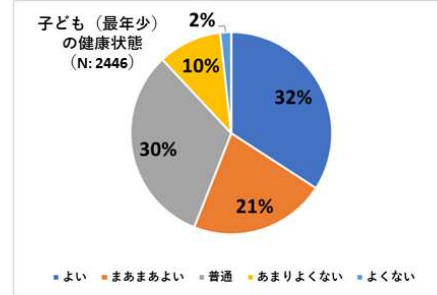
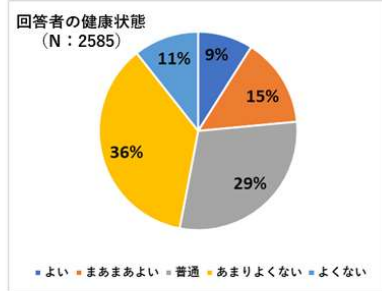


世帯収入が低く、貯蓄がかなり少ないため、家計急変時に一気に危機的状態に陥りやすい。



## この一年の状況（健康状態）

- ・回答者（保護者）の健康状態は、**あまりよくない（36%）、よくない（11%）の合計で約半数に上っている。**
- ・子ども（一番下）の健康状態は、普通、よいが多いが、**あまりよくない、よくないと回答した方が1割を超えている。**



保護者の健康状態が悪化しつつある。  
現在の状態が続くと、子どもの健康悪化もより拡大する。



## 見えてきたもの

### 子どもの支援と共に**子育て家庭の支援が重要**

災害時には子育て家庭、ひとり親など  
**平時から弱い立場の方への経済的支援が重要**

#### 震災から3年後に寄せられた ひとり親家庭からの声

二人の子どもが今になって不登校になってしまった。  
震災直後、まだ電気もつかず、余震も心配な状況ではあったが、  
私は仕事に行かないと、生活ができないために、小学校低学年と幼児の  
子どもを家で留守番をさせて、仕事に行った。  
今思えば、どんなに不安だったろうと思う。  
あの時、仕事など行かずに、子どものそばにいれば良かった

非正規ひとり親家庭は震災時でも子どもよりも仕事を優先しなければならなかった

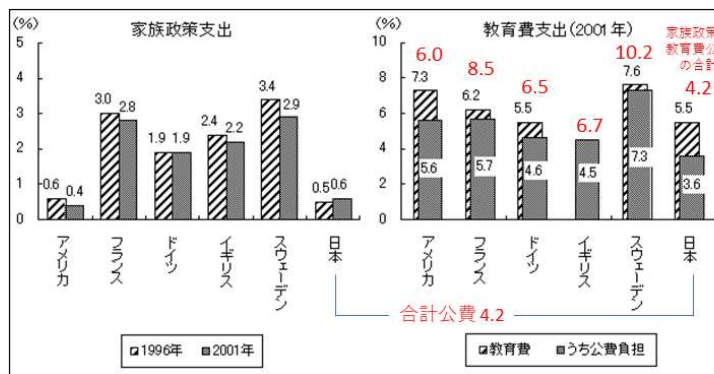
それによって、このように苦しむ家庭がある

## 平時からこども関連予算が少ない日本で、災害時にまずは 子ども・子育て家庭を優先することが大事

(内閣府) 社会全体の子育て費用に関する調査研究報告書概要

図表 47 各国の子育て関連支出の対GDP比

<費用の範囲> 家庭政策支出：児童手当等金銭補助、保育所運営費等 教育支出：学校教育費、奨学金、家計支出



**家族政策支出も  
教育支出も  
少なすぎる**

コロナで収入が  
途絶えると  
子どもが飢え  
学校を辞めざるを  
得ない

注：イギリスについては教育費総額のデータはない。  
[https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa16/hiyo/chap2\\_6.html](https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa16/hiyo/chap2_6.html)

# [ 基調報告 ]

# [ パネルディスカッション ]

コーディネーター

あべ よしえ  
安部 芳絵



工学院大学教育推進機構准教授、

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン理事

## 【略歴】

専門は、子ども支援、子どもの権利条約、災害と子ども。自然災害を始めとした困難な状況下での子どもの意見表明・参加の権利保障と、参加を通じた子どもの回復・成長について研究している。

単著に『子ども支援学研究の視座』（学文社、平成 22 年）、『災害と子ども支援』（学文社、平成 28 年）、『子どもの権利条約を学童保育に活かす』（高文研、令和 2 年）。

東京都立川市夢育て・たちかわ子ども 21 プラン推進会議副会長。一般財団法人児童健全育成推進財団理事。



工学院大学

<https://www.kogakuin.ac.jp/>



公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

<https://www.savechildren.or.jp/>

# 災害と子どもの権利

～パネルディスカッションにあたっての視点～

安部 芳絵(工学院大学)

## 子ども支援を考える国際的枠組み

### ■国連子どもの権利条約(1989)

子どもの最善の利益(第3条)

子どもの意見の尊重(第12条)

### ■国連子どもの権利委員会

一般的意見12号:

意見を聴かれる子どもの権利(2009)CRC/C/GC/12



## 子どもの意見は災害時も尊重される

一般的意見12号 パラ10 緊急事態下における実施

125. 委員会は、**第12条に掲げられた権利は危機状況またはその直後の時期においても停止しないことを強調する**。紛争状況、紛争後の解決、および緊急事態後の復興において子どもたちが重要な貢献を行なえることを示す証拠はますます蓄積されつつある。(略) 子ども参加は、子どもたちが自分たちの生活をふたたびコントロールできるようにするうえで役立ち、立ち直りに寄与し、組織的スキルを発展させ、かつアイデンティティの感覚を強化する。しかし、トラウマにつながるまたは有害である可能性が高い状況を目の当たりにすることから子どもたちを保護するための配慮は必要である。

(平野裕二訳 <https://w.atwiki.jp/childrights/pages/24.html>)

## 気候変動と子ども参加

■気候変動 国連子どもの権利委員会

総括所見：日本第4-5回(2019)CRC/C/JPN/CO/4-5

パラ37気候変動が子どもの権利に及ぼす影響

(a) 気候変動および災害リスク管理の問題を扱う政策またはプログラムの策定にあたり、子どもの特別な脆弱性およびニーズならびに**子どもたちの意見が考慮されることを確保すること**。

(b) 気候変動および自然災害に関する子どもの意識および備えを、学校カリキュラムおよび教員養成・研修プログラムにこの問題を編入することによって高めること。

(平野裕二訳 <https://w.atwiki.jp/childrights/pages/319.html>)

## 子どもの最善の利益と子どもの意見

■ 一般的意見14号(2013): 自己の最善の利益を第一次的に考慮される子どもの権利(第3条第1項) CRC/C/GC/14 パラグラフ54

54. 子どもが非常に幼く、または脆弱な状況に置かれている(たとえば障害を有している、マイノリティ集団に属している、移住者である等) からといって、子どもが自己の意見を表明する権利を剥奪され、または最善の利益の判定の際にその子どもの意見が重視される度合いが低くなるわけではない。このような状況に置かれた子どもが権利を平等に行使できることを保障するための具体的措置が、意思決定プロセスにおける役割を子ども自身に対して保障する個別の評価が行なわれ、かつ、必要なときは、自己の最善の利益の評価への全面的参加を確保するための合理的な配慮および支援が提供されることを条件として、採用されなければならない。

(平野裕二訳 <https://w.atwiki.jp/childrights/pages/235.html>)

## 論点

### 子どもの権利の視点から考える子どもの心の回復

- ・災害など緊急事態下では子どもの声はないがしろにされがち
- ・子どもを真ん中にした心の回復において、どのような視点や枠組みが必要か
- ・子どもの心の回復に向き合ってきたなかでの気づきや変化
- ・子どもの声を聴くことの難しさ・葛藤
- ・それでも、子どもの声を聴くことでみえてくるもの・もたらされるもの



# [ トークショー ]

## 特別ゲスト

まき せいいちろう  
**巻 誠一郎**



特定非営利活動法人ユアアクション理事長、

元サッカー日本代表

### 【略歴】

17年間プロサッカー選手として活躍する傍ら、出身地である地元熊本で少年サッカースクール「カベッサ熊本」をイオンモール宇城に開校を機に、株式会社フットアスを設立。平成27年3月には、地元への深い愛着と子ども達への社会貢献から、放課後等デイサービスセンター「果実の木」（熊本市）の事業にも参画している。その後、障害福祉の分野ではA型就労支援施設「ジェムズチョイス」事業所を開設し、農業と福祉の連携（農福連絡事業）に取り組む。また、平成28年4月14日に発生した熊本地震を受け、自ら復興支援のためのNPO法人「YOUR ACTION」を立ち上げた他、様々な復興支援活動に尽力。

東京では東京工業大学と協働研究のベンチャー企業「aiwell」社の社外取締役役に就任し、ヘルスケア分野における様々な異分野連携を実現し、健康情報の統合的活用とそれに基づく健康増進・予防サービスの提供事業を展開。

その他、現役、引退問わずアスリート全般の社会貢献活動事業を立ち上げるなど、慈善活動、各種事業で様々な分野でリーダーシップを取り、幅広い経験を積み重ねている。令和元年Jリーグ功労選手賞受賞。



特定非営利活動法人ユアアクション

<https://youraction.or.jp/>

## 〔YouTube での人権啓発関連映像の配信について〕

動画共有サイト YouTube（ユーチューブ）の「人権チャンネル」と「法務省チャンネル」では、人権について理解していただくための映像を公開しています。

<https://www.youtube.com/jinkenchannel>

人権チャンネル

検索



【STOP！コロナ差別】



ピコ太郎さん（シンガーソングライター）



白本彩奈さん（女優）

法務省チャンネル

検索



<https://www.youtube.com/MOJchannel>



STOP！コロナ差別～差別や偏見を思いやりやエールに！～



STOP！コロナ差別 <尾身先生の気づき喚起動画>編



法務省人権擁護局「STOP！コロナ差別」特設サイト

[https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken02\\_00022.html](https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken02_00022.html)

## 〔「STOP！コロナ差別」座談会の内容公開について〕

「コロナ差別」が生まれるメカニズムを多様な観点から考察するとともに、社会や人々がどう立ち向かうべきか、座談会を行いました。広く内容を公開しています。

# 新型コロナウイルス感染症と人権に関する座談会

## STOP! コロナ差別

～差別や偏見を思いやりやエールに！～

**特別採録**

- 「採録記事」と「発言録」で議論内容を「読む!」
- 感染を経験した住吉美紀さんのラジオ番組トークを「聞く!」
- 無料貸し出しの収録DVDで座談会を「見る!」

法務省・全国人権擁護委員連合会

(コーディネーター) 坂元 茂樹 公益財団法人人権教育啓発推進センター理事長	(モデレーター) 森光 玲雄さん 臨床心理士	(パネリスト) 磯野 真穂さん 文化人類学者・医療人類学者	(パネリスト) 増田 コリヤさん ジャーナリスト
--	------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------

こちらからアクセス



<https://www.jinken-library.jp/corona2020/>

[ 人権ライブラリーの御案内 ]



人権ライブラリーでは、およそ 15,000 冊の国内外の人権関連図書を始め、映像資料 (DVD、VHS)、紙芝居、展示用パネル、全国の地方公共団体が発行する啓発資料などを所蔵し、閲覧・貸出しを行っています。

これらの啓発資料は、郵送等による貸出しを行っており、遠方の方も御利用いただけます。また、無料の貸会議室 (多目的スペース) もございます。ぜひ、御利用ください。



人権ライブラリー

検索

<https://www.jinken-library.jp>



〒105-0012 東京都港区芝大門 2-10-12 KDX 芝大門ビル 4F  
TEL 03-5777-1919 / FAX 03-5777-1954  
Eメール library@jinken.or.jp

※ 公益財団法人人権教育啓発推進センター・併設



人権イメージキャラクター人KENまもる君と人KENあゆみちゃんは、漫画家やなせたかしさんのデザインにより誕生しました。2人とも、前髪が「人」の文字、胸に「KEN」のロゴで、「人権」を表しています。人権が尊重される社会の実現に向けて、全国各地の人権啓発活動で活躍しています。

## 人権を侵害されていると感じたら… 法務局・地方法務局、その支局に気軽に御相談ください

みんなの人権 110番		0 5 7 0 - 0 0 3 - 1 1 0
女性の人権ホットライン		0 5 7 0 - 0 7 0 - 8 1 0
子どもの人権 110番		0 1 2 0 - 0 0 7 - 1 1 0
外国語人権相談ダイヤル		0 5 7 0 - 0 9 0 - 9 1 1

令和3年度法務省委託

災害と人権に関するシンポジウム～子どもたちの心の復興～

公益財団法人人権教育啓発推進センター

「災害と人権に関するシンポジウム」事務局

〒105-0012 東京都港区芝大門 2-10-12 KDX 芝大門ビル 4F

TEL 03-5777-1802 (代表) / FAX 03-5777-1803

ウェブサイト <http://www.jinken.or.jp>  @Jinken\_Center

YouTube 「人権チャンネル」 <https://www.youtube.com/jinkenchannel>

YouTube 「法務省チャンネル」 <https://www.youtube.com/MOJchannel>

人権ライブラリー <https://www.jinken-library.jp>

※ 人権教育啓発推進センター併設

法務省人権擁護局 <https://www.moj.go.jp/JINKEN/>



法務省人権擁護局で検索！

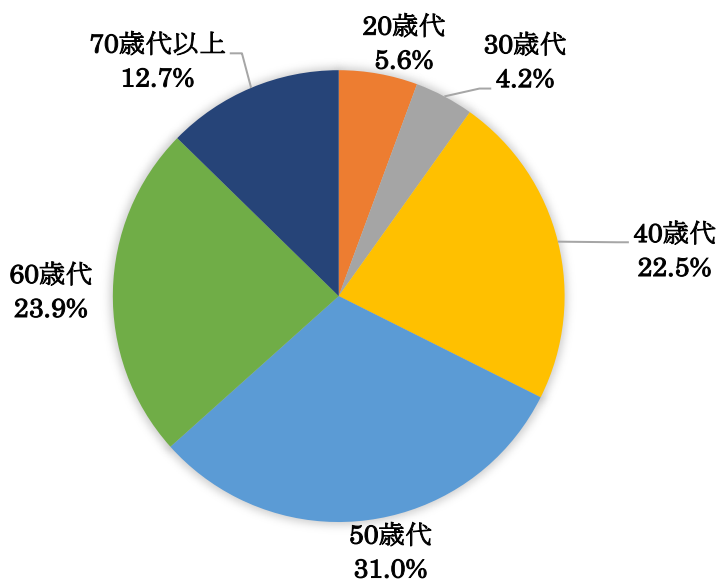


災害と人権に関するシンポジウム 参加者アンケート集計結果

(注) 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため合計は必ずしも 100 とは限らない。

1-1 御自身について、当てはまるものを選んでください。(年齢)

(1)	年齢	
2	10 歳代	0 件
3	20 歳代	4 件
4	30 歳代	3 件
5	40 歳代	16 件
6	50 歳代	22 件
7	60 歳代	17 件
8	70 歳代以上	9 件
	計	71 件

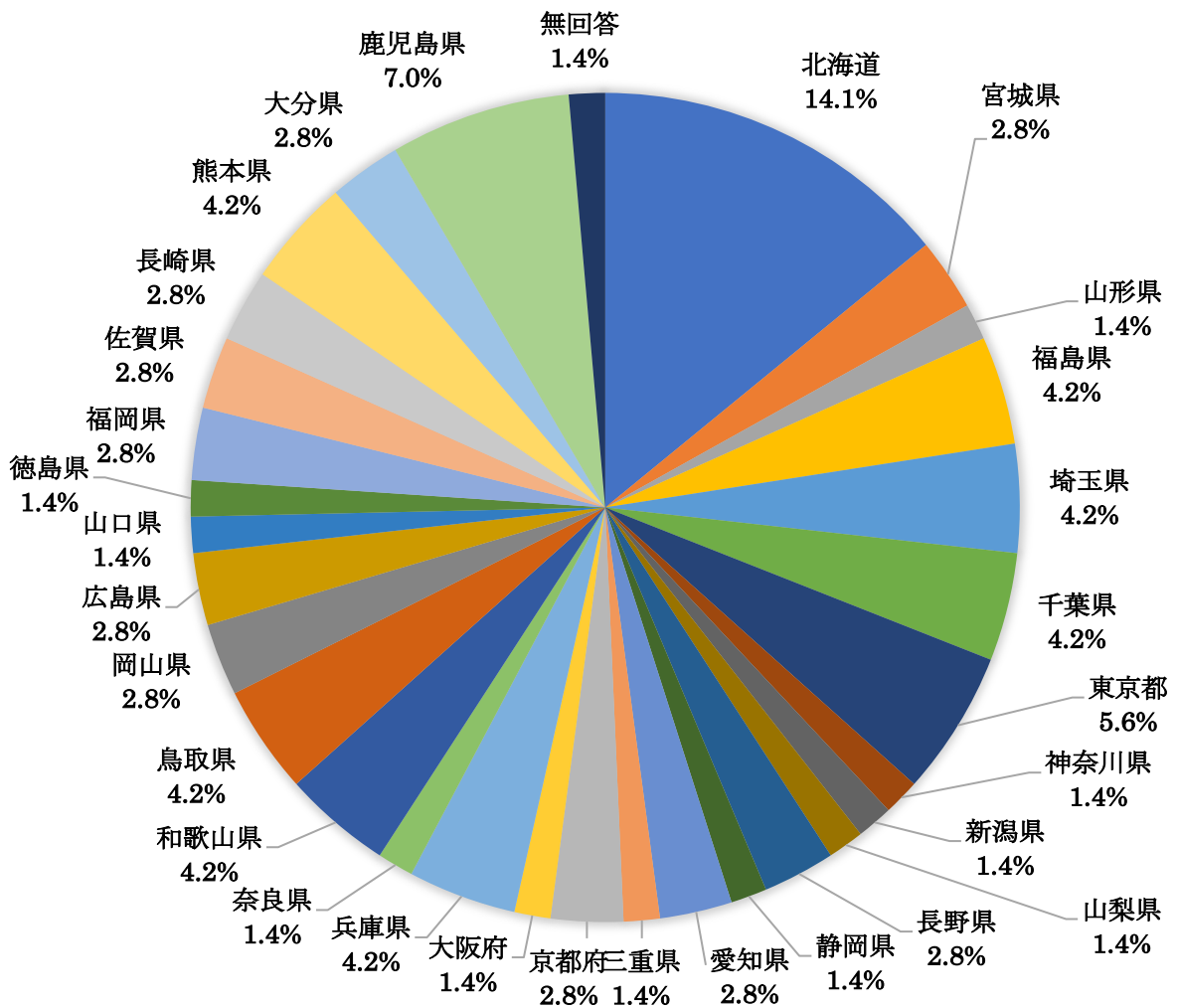


1-2 御自身について、当てはまるものを選んでください。(居住地)

(2)	居住地	
1	北海道	10 件
2	青森県	0 件
3	岩手県	0 件
4	宮城県	2 件
5	秋田県	0 件
6	山形県	1 件
7	福島県	3 件
8	茨城県	0 件
9	栃木県	0 件
10	群馬県	0 件
11	埼玉県	3 件
12	千葉県	3 件
13	東京都	4 件
14	神奈川県	1 件
15	新潟県	1 件
16	富山県	0 件
17	石川県	0 件
18	福井県	0 件
19	山梨県	1 件
20	長野県	2 件
21	岐阜県	0 件
22	静岡県	1 件
23	愛知県	2 件
24	三重県	1 件
25	滋賀県	0 件
26	京都府	2 件
27	大阪府	1 件
28	兵庫県	3 件
29	奈良県	1 件
30	和歌山県	3 件
31	鳥取県	3 件
32	島根県	0 件
33	岡山県	2 件
34	広島県	2 件
35	山口県	1 件

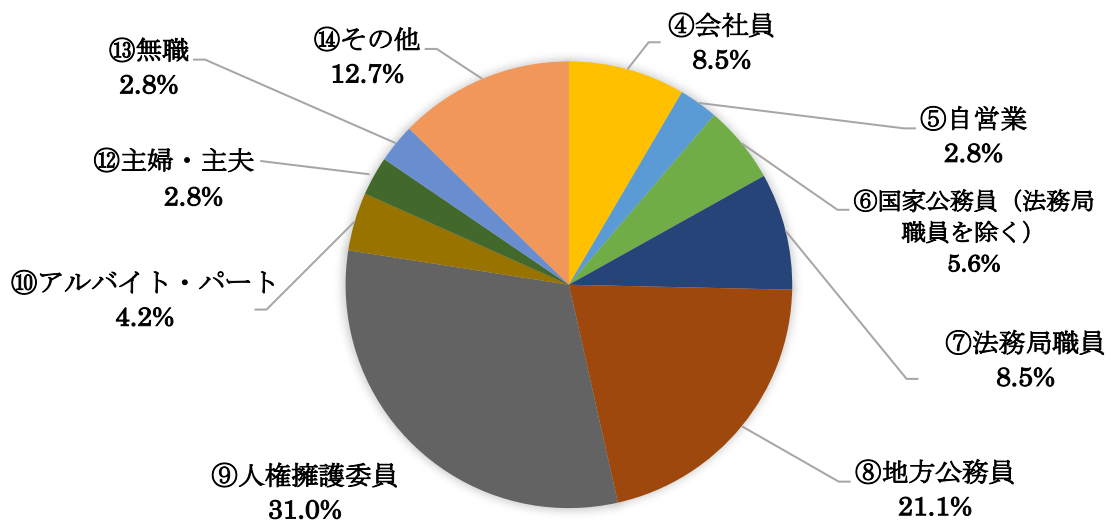


36	徳島県	1件
37	香川県	0件
38	愛媛県	0件
39	高知県	0件
40	福岡県	2件
41	佐賀県	2件
42	長崎県	2件
43	熊本県	3件
44	大分県	2件
45	宮崎県	0件
46	鹿児島県	5件
47	沖縄県	0件
48	その他	0件
	無回答	1件
	計	71件



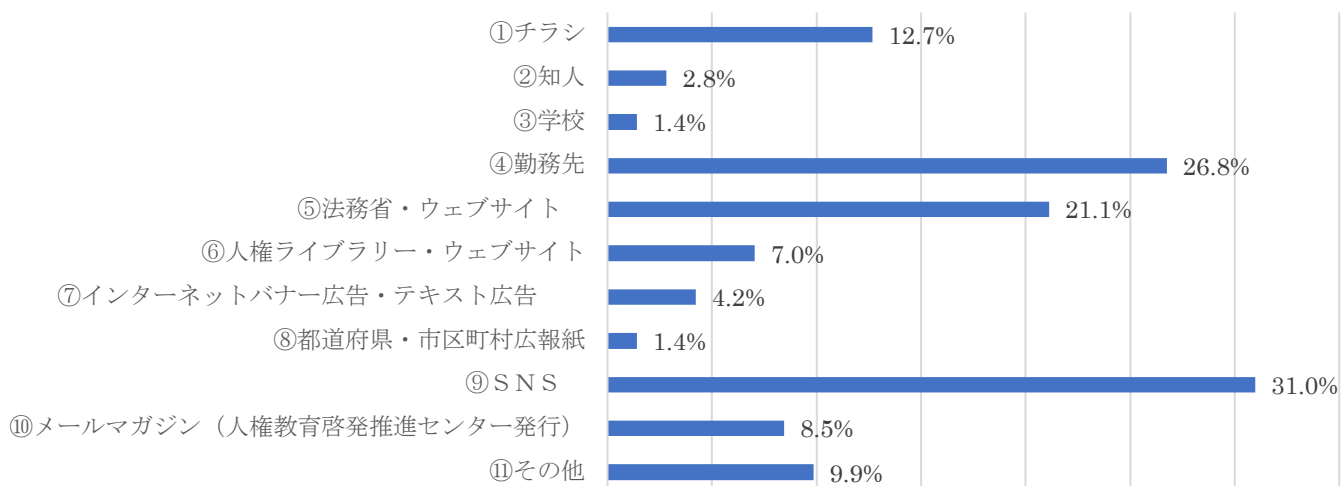
1-3 御自身について、当てはまるものを選んでください。(職業)

(3)	職業	
1	①中学生	0件
2	②高校生	0件
3	③専門学校・大学生	0件
4	④会社員	6件
5	⑤自営業	2件
6	⑥国家公務員（法務局職員を除く）	4件
7	⑦法務局職員	6件
8	⑧地方公務員	15件
9	⑨人権擁護委員	22件
10	⑩アルバイト・パート	3件
11	⑪派遣・契約社員	0件
12	⑫主婦・主夫	2件
13	⑬無職	2件
14	⑭その他	9件
	計	71件



2 「災害と人権に関するシンポジウム」をどのようにして知りましたか。(複数回答可)

1	①チラシ	9件
2	②知人	2件
3	③学校	1件
4	④勤務先	19件
5	⑤法務省・ウェブサイト	15件
6	⑥人権ライブラリー・ウェブサイト	5件
7	⑦インターネットバナー広告・テキスト広告	3件
8	⑧都道府県・市区町村広報紙	1件
9	⑨SNS	22件
10	⑩メールマガジン（人権教育啓発推進センター発行）	6件
11	⑪その他	7件
	計	90件

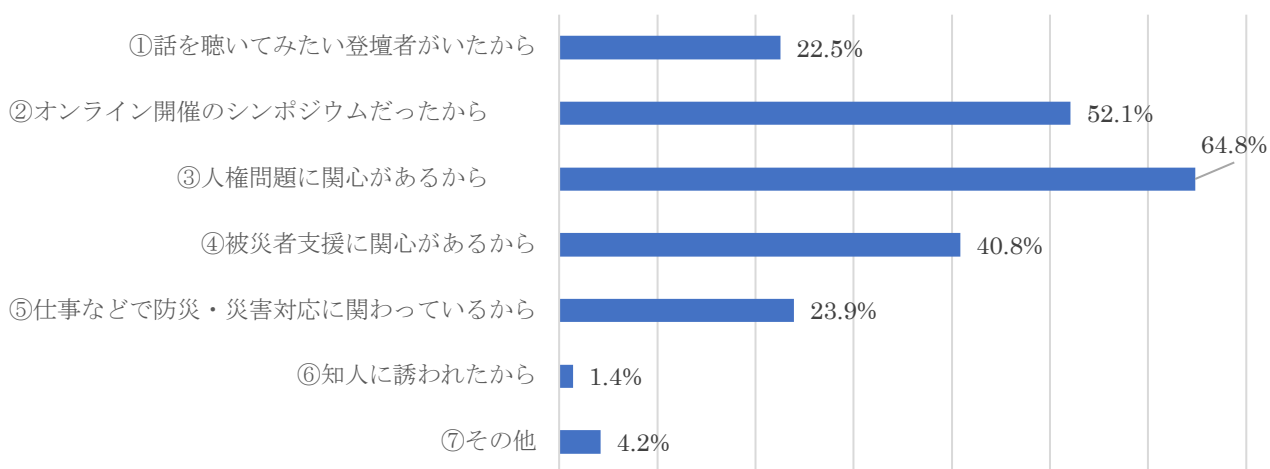


n = 71 (回答者数)

※ n (=回答者数) に対する割合

3 このシンポジウムを視聴しようと思ったきっかけを教えてください。(複数回答可)

1	①話を聴いてみたい登壇者がいたから	16件
2	②オンライン開催のシンポジウムだったから	37件
3	③人権問題に関心があるから	46件
4	④被災者支援に関心があるから	29件
5	⑤仕事などで防災・災害対応に関わっているから	17件
6	⑥知人に誘われたから	1件
7	⑦その他	3件
	無回答	1件
	計	150件

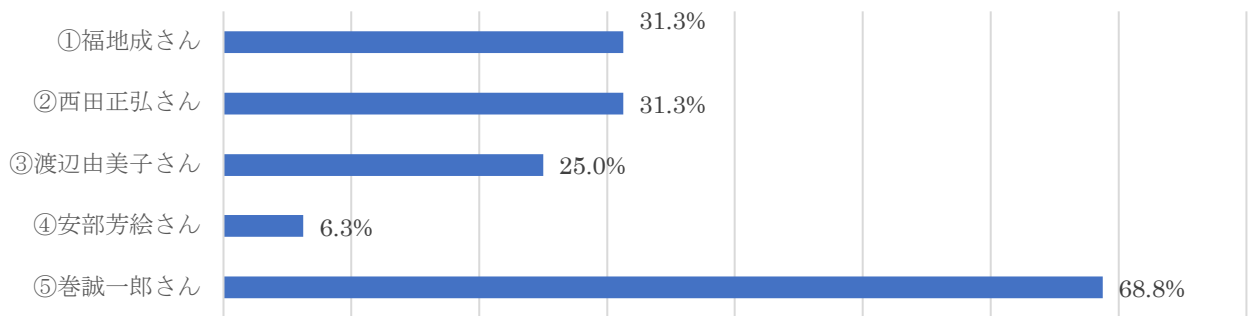


n = 71 (回答者数)

※ n (=回答者数) に対する割合

3で①「基調講演・パネルディスカッション、トークショーの話を聴きたかったから」と答えた方はその登壇者を教えてください。

1	①福地成さん	5件
2	②西田正弘さん	5件
3	③渡辺由美子さん	4件
4	④安部芳絵さん	1件
5	⑤巻誠一郎さん	11件
	計	26件

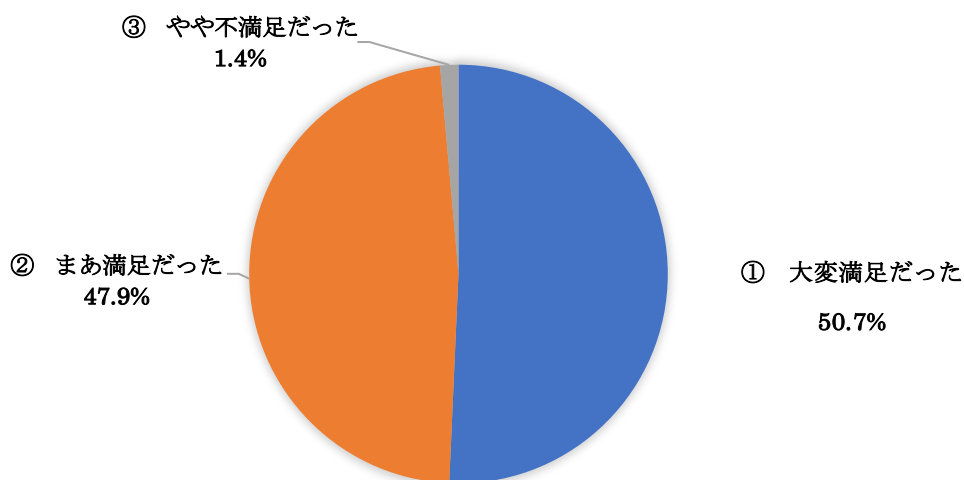


n = 16 (回答者数)

※ n (=回答者数) に対する割合

4-1 今回のシンポジウムは全体として満足いくものでしたか。

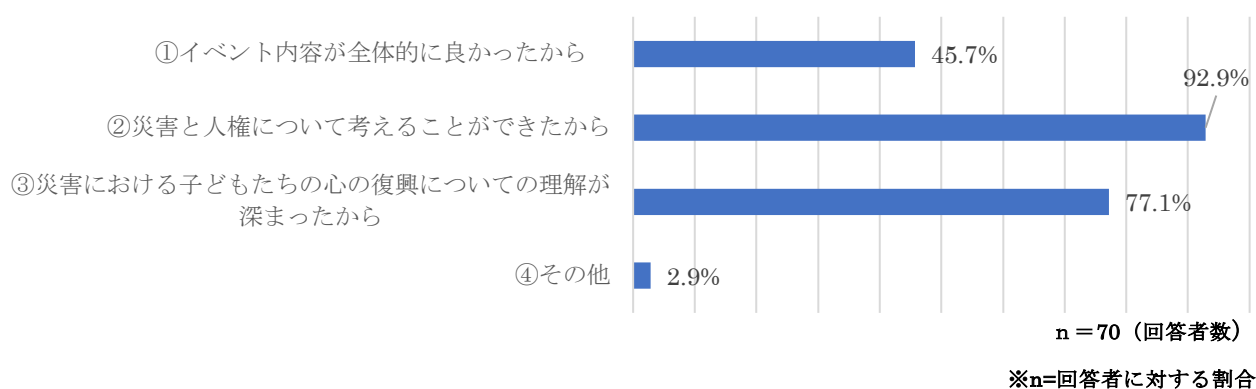
1	① 大変満足だった	36件
2	② まあ満足だった	34件
3	③ やや不満足だった	1件
4	④ 大変不満足だった	0件
	計	71件





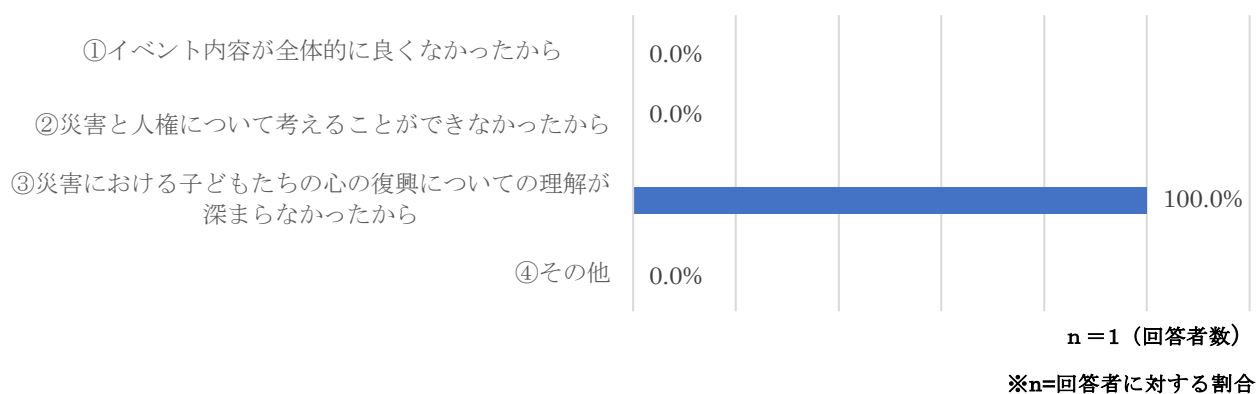
4-2 4-1で「①大変満足だった」又は「②まあ満足だった」とお答えいただいた方に伺います。その理由をお聞かせください。（複数回答可）

1	①イベント内容が全体的に良かったから	32件
2	②災害と人権について考えることができたから	65件
3	③災害における子どもたちの心の復興についての理解が深まったから	54件
4	④その他	2件
	計	153件



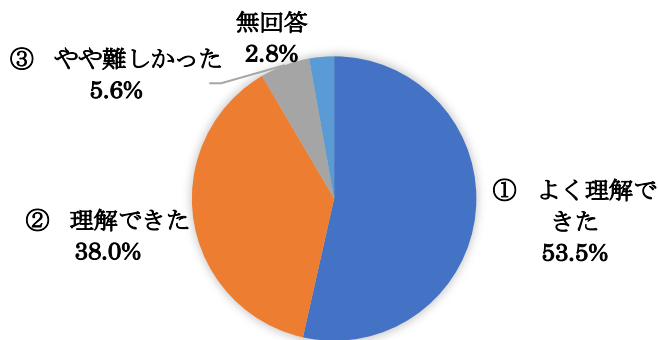
4-3 4-1で「③やや不満足だった」又は「④大変不満足だった」とお答えいただいた方に伺います。その理由をお聞かせください。（複数回答可）

1	①イベント内容が全体的に良くなかったから	0件
2	②災害と人権について考えることができなかったから	0件
3	③災害における子どもたちの心の復興についての理解が深まらなかったから	1件
4	④その他	0件
	計	1件



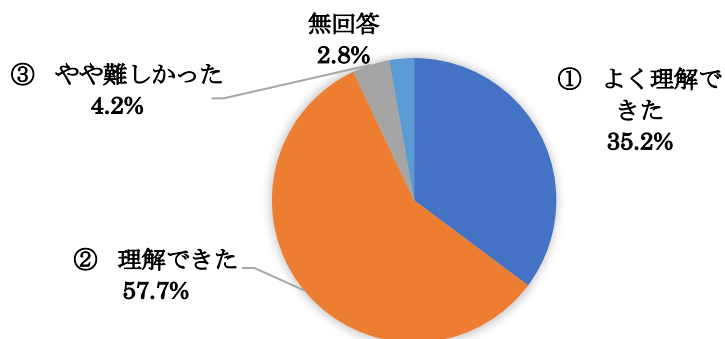
5-1 基調報告（福地成さん）の内容について伺います。

1	① よく理解できた	38 件
2	② 理解できた	27 件
3	③ やや難しかった	4 件
4	④ 難しかった	0 件
	無回答	2 件
	計	71 件



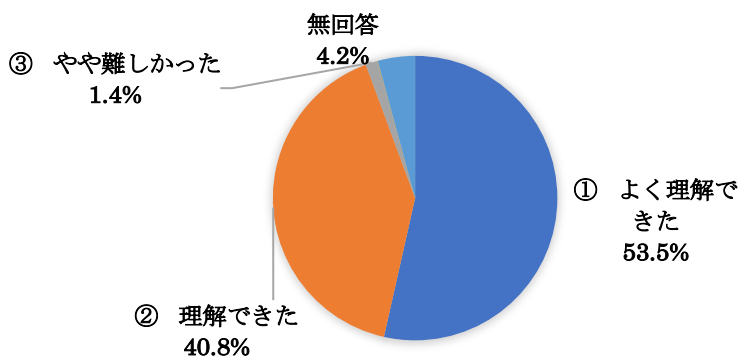
5-2 基調報告（西田正弘さん）の内容について伺います。

1	① よく理解できた	25 件
2	② 理解できた	41 件
3	③ やや難しかった	3 件
4	④ 難しかった	0 件
	無回答	2 件
	計	71 件



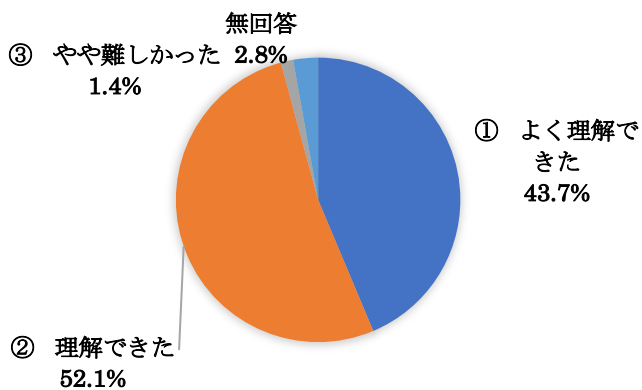
5-3 基調報告（渡辺由美子さん）の内容について伺います。

1	① よく理解できた	38件
2	② 理解できた	29件
3	③ やや難しかった	1件
4	④ 難しかった	0件
	無回答	3件
	計	71件



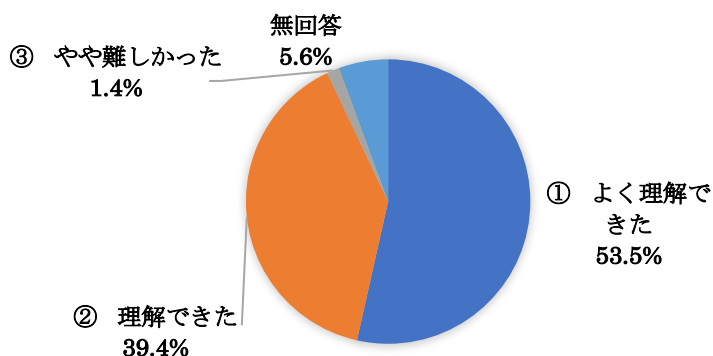
5-4 パネルディスカッションの内容について伺います。

1	① よく理解できた	31件
2	② 理解できた	37件
3	③ やや難しかった	1件
4	④ 難しかった	0件
	無回答	2件
	計	71件



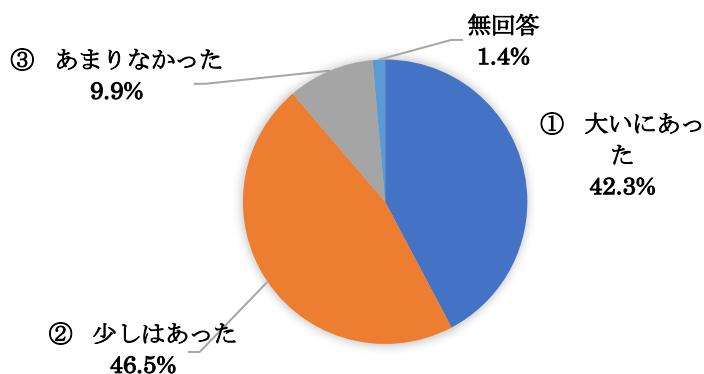
5-5 トークショー（巻誠一郎さん）の内容について伺います。

1	⑤ よく理解できた	38件
2	⑥ 理解できた	28件
3	⑦ やや難しかった	1件
4	⑧ 難しかった	0件
	無回答	4件
	計	71件



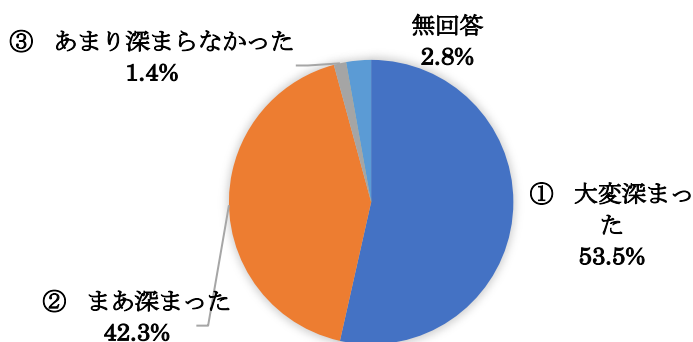
6-1 今回のシンポジウム以前に、被災者支援や被災者への人権的配慮についてどのくらい関心や理解がありましたか。

1	① 大いにあった	30件
2	② 少しはあった	33件
3	③ あまりなかった	7件
4	④ 全くなかった	0件
	無回答	1件
	計	71件



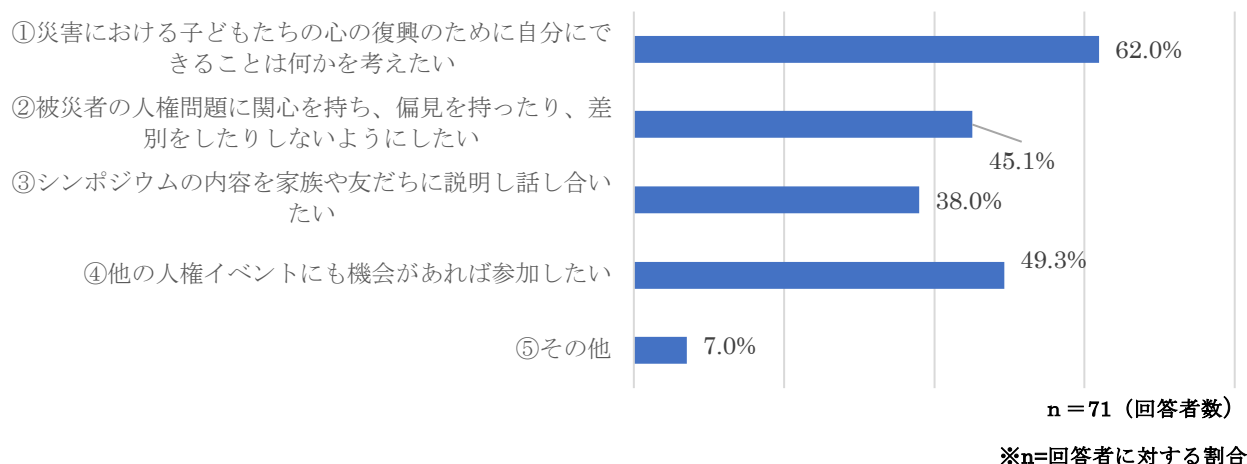
6-2 シンポジウムを終えて、被災者支援や被災者への人権的配慮についての関心や理解は深まりましたか。

1	① 大変深まった	38件
2	② まあ深まった	30件
3	③ あまり深まらなかった	1件
4	④ 全く深まらなかった	0件
	無回答	2件
	計	71件



6-3 シンポジウムに参加して、何か行動しようと思いましたか。(複数回答可)

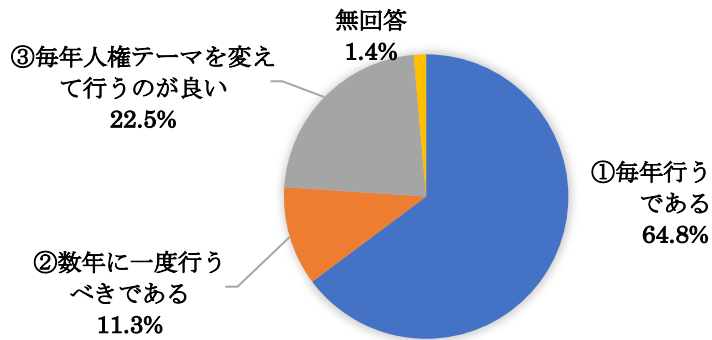
1	①災害における子どもたちの心の復興のために自分にできることは何かを考えたい	44件
2	②被災者の人権問題に関心を持ち、偏見を持ったり、差別をしたりしないようにしたい	32件
3	③シンポジウムの内容を家族や友だちに説明し話し合いたい	27件
4	④他の人権イベントにも機会があれば参加したい	35件
5	⑤その他	5件
	計	143件





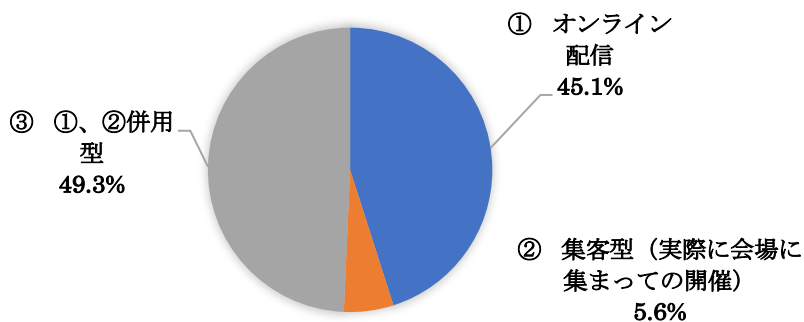
7 これからの災害と人権のシンポジウムについて、どう思いますか。

1	①毎年行うべきである	46件
2	②数年に一度行うべきである	8件
3	③毎年人権テーマを変えて行うのが良い	16件
4	④その他	0件
	無回答	1件
	計	71件



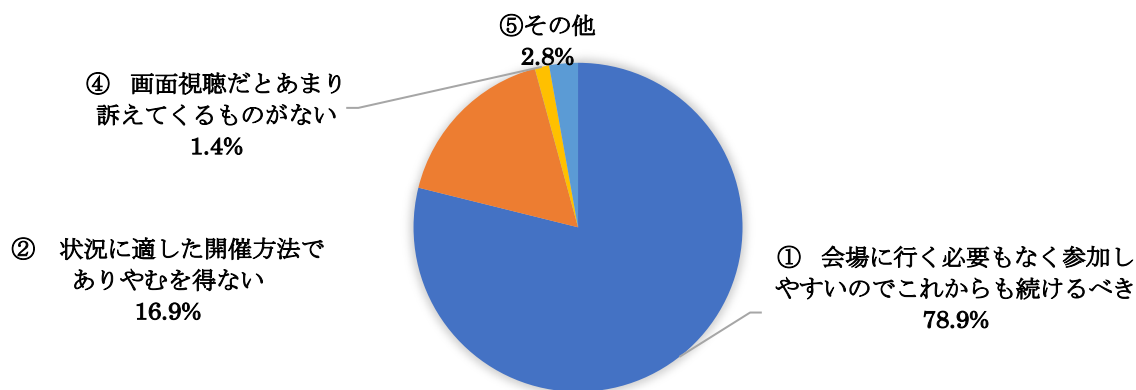
8 今回のシンポジウムのようなイベントの開催方法は、どの方法が良いと思いますか。

1	① オンライン配信	32件
2	② 集客型（実際に会場に集まっての開催）	4件
3	③ ①、②併用型	35件
4	④ その他	0件
	計	71件



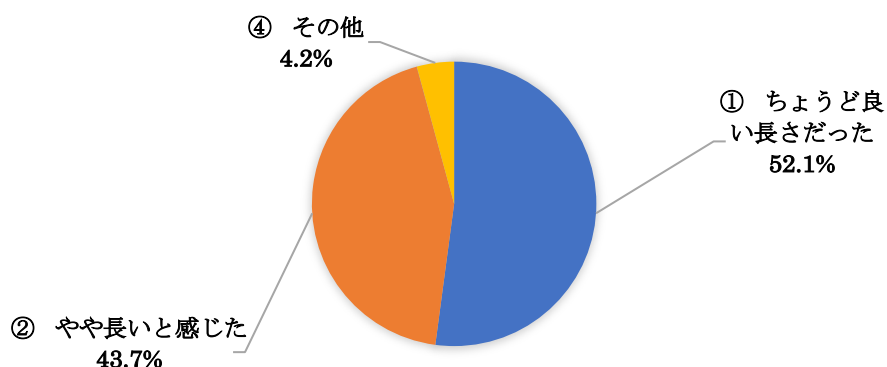
9 シンポジウムのオンライン開催について、どう思いますか。

1	① 会場に行く必要もなく参加しやすいのでこれからも続けるべき	56件
2	② 状況に適した開催方法でありやむを得ない	12件
3	③ 参加する方法がよく分からず大変だった	0件
4	④ 画面視聴だとあまり訴えてくるものがない	1件
5	⑤ その他	2件
	計	71件



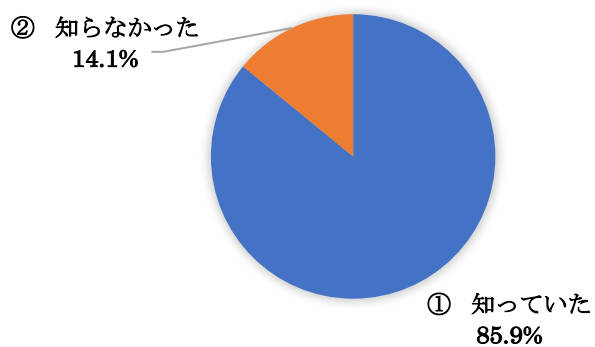
10 シンポジウムの開催時間について、どう思いますか。

1	① ちょうど良い長さだった	37件
2	② やや長いと感じた	31件
3	③ やや短いと感じた	0件
4	④ その他	3件
	計	71件



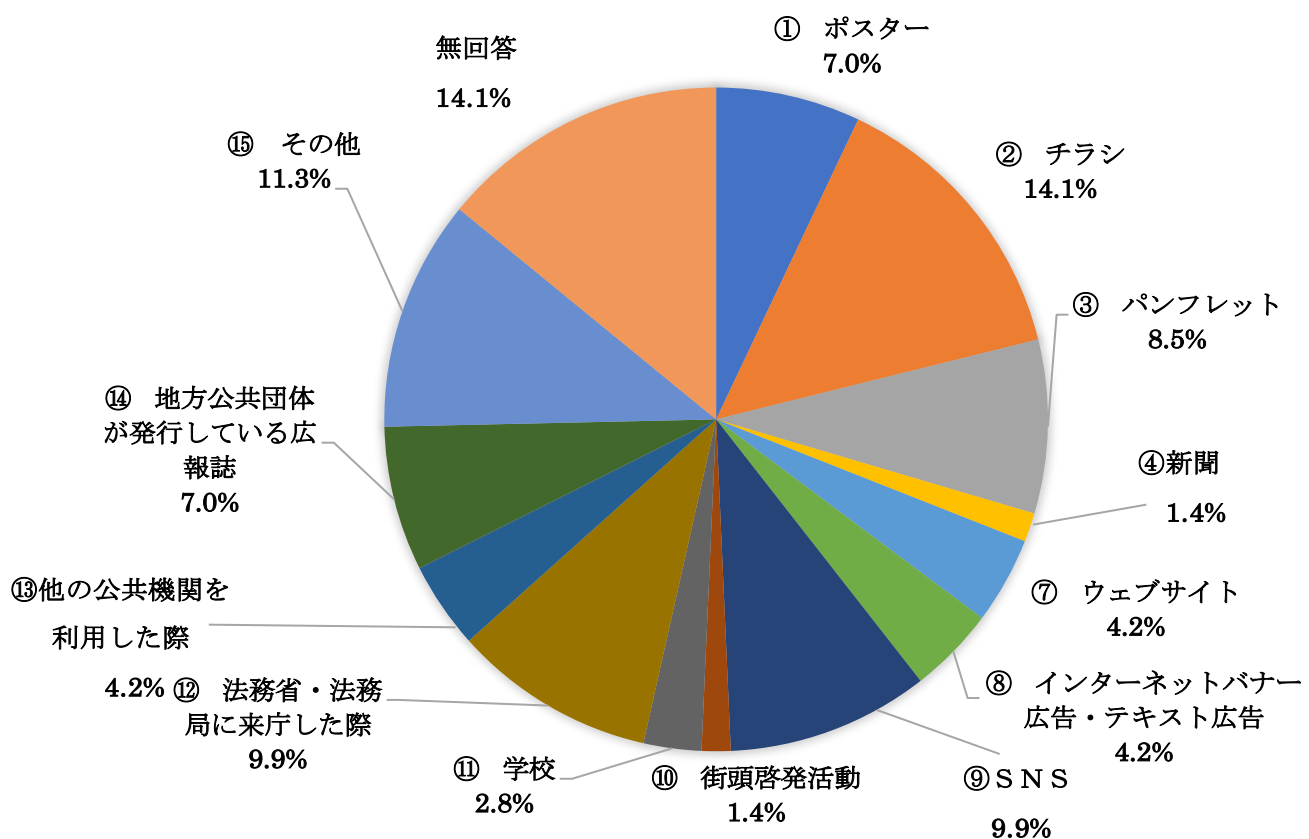
11 本シンポジウムなど、国の人権擁護機関（法務省、法務局・地方法務局、人権擁護委員）が、広く人権啓発活動を行っていることを知っていましたか。

1	① 知っていた	61件
2	② 知らなかった	10件
	計	71件



12 「11」で「①知っていた」とお答えいただいた方に伺います。どのようにして国の人権擁護機関が行っている人権啓発事業を知りましたか。

1	① ポスター	5件
2	② チラシ	10件
3	③ パンフレット	6件
4	④ 新聞	1件
5	⑤ テレビ	0件
6	⑥ ラジオ	0件
7	⑦ ウェブサイト	3件
8	⑧ インターネットバナー広告・テキスト広告	3件
9	⑨ SNS	7件
10	⑩ 街頭啓発活動	1件
11	⑪ 学校	2件
12	⑫ 法務省・法務局に来庁した際	7件
13	⑬ 他の公共機関を利用した際	3件
14	⑭ 地方公共団体が発行している広報誌	5件
15	⑮ その他	8件
	無回答	10件
	計	71件



震災等の災害発生時には、住まいの再建やインフラ整備などハード面の復興はもとより、被災者が誰一人取り残されることのないよう、その心の復興も重要な課題となります。特に子どもについては、大人に比べて、自分の状態を客観的に把握することが困難であるなど、その特性を理解して人権に配慮した心の復興を進める必要があります。

被災した子どもたちの心理的回復に焦点を当て、その支援等に取り組んできた方々のお話を聴きながら、人権的観点から子どもたちの心の復興の在り方について考えるためのシンポジウムを開催しました。

## 災害と人権に関するシンポジウム

### ～子どもたちの心の復興～



実施日：2022（令和4）年1月15日（土）

形式：オンライン配信

主催：法務省／全国人権擁護委員連合会／札幌法務局／札幌人権擁護委員連合会／盛岡地方法務局／岩手県人権擁護委員連合会／仙台法務局／宮城県人権擁護委員連合会／福島地方法務局／福島県人権擁護委員連合会／神戸地方法務局／兵庫県人権擁護委員連合会／熊本地方法務局／熊本県人権擁護委員連合会／（公財）人権教育啓発推進センター

当日の様子はYouTube「人権チャンネル」にて配信中

（2023（令和5）年2月28日まで（予定））：<https://youtu.be/4gEDe9gQ6tk>



災害と人権に関するシンポジウム～子どもたちの心の復興～

#### 基調報告1

#### 大災害と子どものこころの反応

福地 成



（東北医科薬科大学精神科学教室病  
院准教授、公社宮城県精神保健福  
祉協会みやぎ心のケアセンター長）

東日本大震災（2011（平成23）年）直後、避難所や仮設住宅を巡る中で受けた子どもたちに関する相談の多くは、「子どもがえり（保護者にベタベタする）」、「びっくり反応（大きな音や余震への過剰反応）」、「過剰な備え（懐中電灯を枕元に置くなど）」でした。保護者は「子どもがおかしくなった」と思いがちですが、これは「異常な出来事における正常な反応」です。保護者に丁寧の説明することで、そのような相談は1～2か月で収束しました。しかし、このような事態への対処として、それまで誤った方法が採られていました。例えば、阪神・淡路大震災（1995（平成7）年）では支援者が早期に介入し、被災体験の内容に踏み込んで感情の表出を促す支援が行われましたが、現在、これは有害もしくは無効だと分かっています。

震災から2～3年経つと、子どもたちがお小遣いを計画的に使えなくなる反応も見られました。津波で貯金が流されなくなり、貯めても意味がないと感じた子は、「また地震や津波が起きるかもしれ



ない」と不安だったのだと思います。また、被害の少ない地域に転居・転校した子は、自分のつらい体験や気持ちを周囲と分かち合えず、心の健康が良くない傾向にありました。

4～5年経つと、震災時には1～3歳だった子どもたちが小学校低学年になり、保護者から「震災のことを今になって話し出す」との相談も受けました。被災した子が年月を重ねて言葉の能力を獲得し、記憶を語り出したものと考えています。中・高校生では、震災当時は避難所や仮設住宅の手伝いをしていただけで、数年経つていわゆる「燃え尽き」になる子もいました。子どもの反応を考える上で、私は「時間軸」が最も大事だと考えています。いつ、どんな体験をして、その時どう感じて、数年が経過した今、彼らはどう考えているかと、照らし合わせて考えることが必要です。

私たちは、震災後に生まれた子どもたちにも震災が影響を与えていると考え、東北3県合同で子どもの長期的な発達と健康の調査・研究を行っています。その結果、保護者のメンタルヘルスと子どもの認知発達の遅れや行動の問題には関連があり、また多くの保護者のメンタルヘルスは家庭や地域とのつながりに支えられていることが分かりました。では、家庭と地域のつながりを構築するためには

どうしたらいいか、宮城県山元町の例を御紹介します。この町では震災後、地域の人たちが集まって、駅前や壁に地元のお祭りなどの絵を描きました。地域の文化や伝統といった大切なものを中心に、共同作業を通じて人々がつながりを作る。こういった活動が、最終的に子どもたちの心の健康にもつながると考えています。

#### 基調報告②

「死別を生きる」子どもたちと歩む  
グリーフサポーターのさんま

（時間・空間・仲間）

西田 正弘



（一財）あしなが育英会  
東北レインボーハウス所  
長兼心のケア事業部長

あしなが育英会は現在、病气や災害、自死で親が死亡したり、障がいなどで保護者が働けない家庭の子どもに、奨学金貸与や学生寮といった教育支援と、レインボーハウスという施設で心のケアを行っています。

阪神・淡路大震災直後、私たちはまず避難所を回り、親を亡くした子どもたちを探しました。金銭的な支援を行ったり、孤立させないような交流会を開催したりしましたが、そこで黒く塗りつぶした虹の絵を描く子どもに出会いました。その子は、震災で家族と数時間生き埋めにな

り父親と妹を失っています。この出会いをきっかけに、私たちは家族を失った子どもの心理面に関する理解を深めるため、アメリカの支援団体へ学びに行きました。そして、グリーフ（死別による悲しみなどの様々な感情）は大人も子どもも違くないこと、訓練を受けた大人が側にいて、一緒に遊んで、子どもの「あのね」を聞いてあげること、あくまで子どもが中心で、関わる大人は手助けする関係であることの重要性を学びました。

私たちは東日本大震災後の2013（平成25）年に震災遺児家庭を対象にアンケート調査を行いました。その結果から、自らも死にかけた経験、家族の死、コミユニティや住まいの喪失、将来への不安などにより、震災遺児家庭はトラウマ、グリーフ、ストレスの複合体体験の中にあると分かりました。また、東日本大震災では津波により御家族が行方不明の方もおり、生死がはっきりしない「あいまいな喪失」は区切りが付けにくいのが特徴です。震災遺児家庭のグリーフは現在進行形で、その気持ちは誰かが代わられるのではなく、保護者にも子どもにも、「自分自身で自分の気持ちに丁寧に触れられる力」を得られるようサポートする必要がありますを感じました。そこで私たちは、同じような体験をした人同士が出会い、語り合い、つながることができるピアサポー

トの場を提供するため、グリーンフサポータープログラムを開催しています。日帰りや宿泊、キャンプなど野外活動のプログラムを行っており、訓練を受けた大人の「ファシリテーター」も参加し、子どもたちに寄り添っています。一緒に遊ぶことを通じたグリーンフワークを大切にしており、その中で子どもたちが自分という存在の大切さを感じ、大事な人を亡くした事実に向き合う力、自己肯定感、他者受容力などを得る支援をしています。また、プログラムでは保護者の方が子どもから離れて、保護者同士の悩みを打ち明ける時間も大事にし、孤立化を防ぐよう努めています。支えることのゴールは様々ありますが、困ったときに「助けて」と「あのね」と言える相手ができるように支援することがとても大切だと思っています。

### 基調報告③

## 震災とコロナ禍で共通するもの



渡辺 由美子  
（認定特定非営利活動法人  
キッズドリア理事長）

キッズドリアは、子どもの学習支援、居場所作りなどを通じて日本の子どもの貧困という課題に取り組んでおり、2011（平成23）年4月から東日本大震災で被災した子どもたちへの支援も行っています。

震災直後、まず私たちは一緒に遊ぶことで子どもたちに寄り添いました。当時、避難所では大人に代わって中・高校生が小さな子どもたちの面倒を見てくれていましたが、その中・高校生たちへのケアは行き届いておらず、彼らとバドミントンをしたりすると、大変喜ばれたそうです。また、受験を控えた子どもたちのために、受験対策の学習支援を行いました。被災という非日常が続く中、勉強は子どもたちにとって少し心が落ち着く時間だったようです。

学習支援の現場でも心のケアと同様に、時間の経過とともにニーズの変化がありました。震災から約2年間は、避難所や仮校舎での学習支援や子どもの居場所作りが多かったのですが、だんだんと生活が落ち着いていくに従い、勉強が遅れている子への補習型学習支援や受験対策が求められました。また、被災した子どもたちを復興人材として育てる様々なプログラムが開かれ始めたことが東日本大震災では特徴的でしたが、東北復興の役に立ちたいという強い思いがあるがゆえに「何もできない」と感じ、その無力感から結果として不登校になってしまいう子どももいました。近年は人口流出や学力低下により、地域に根付いた復興人材の育成や東北エリア全体の学力の底上げが求められており、私たちは「志翔学舎」と

いう公営放課後塾の運営や、「タダゼミ」という高校受験講座を行っています。支援は途切れることなく続けることが大切で、それによって子どもたちも明るく、前向きになってくれると思っています。

現在、コロナ禍にありますが、私たちが支援している困窮した子育て家庭では日々の食事にも困っているのが現状です。この1年の健康状態についてアンケート調査を行ったところ、約半数の保護者の方が「良くない」又は「あまり良くない」と答えました。現在の状態が続くと、子どもの健康状態の悪化も拡大すると感じています。東日本震災とコロナ禍から見えてくる大切なことは、子どもの支援と家庭の支援は同一であり、生活が落ち着くことが第一であるということです。東日本大震災では、震災直後よりも2〜3年後に不登校が増えました。震災当時、余震が続く中でも保護者は生活のために働きに行かねばならず、保護者も子どももメンタルの状況が悪かった。その時の影響が震災から2〜3年後に表れたのです。コロナ禍から2年が経ちますが、子どもが不登校になるひとり親家庭が増えています。災害などの異常時にまずは子どもと子育て家庭を優先することが大事だと思っています。震災の経験も踏まえて、非常時に子育て家庭をどのように支援するのか、みんなで考えていきたいです。



## パネルディスカッション

## コーディネーター

・安部 芳絵（工学院大学教育推進機構  
准教授、(公社)セーブ・ザ・チルド  
レン・ジャパン理事）

## パネリスト

・福地 成（東北医科薬科大学精神科学  
教室病院准教授、(公社)宮城県精神  
保健福祉協会みやぎ心のケアセンタ  
ー長）

・西田 正弘（一財）あしなが育英会  
東北レインボーハウス所長兼心のケア  
事業部長）

・渡辺 由美子（認定特定非営利活動法  
人キッズドア理事長）



安部 国連子どもの権  
利条約は、子どもにとつ  
て一番良いことをしようと  
いう国同士の約束で、

何が最善かを子どもと一緒に考えるとい  
う点がポイントです。また、国連の見解  
としては、子どもの意見は災害時でも尊  
重されることとなっています。この「子  
どもの最善の利益」、「子どもの意見の尊  
重」を考えるときに大切なのは、幼くて  
も、脆弱な状況に置かれていても、その  
子どもたちの声を尊重することが求めら  
れている点です。しかし、災害などの緊  
急事態下では、子どもの声はないがしろ  
にされがちです。そこで、子どもを中心

に据えた心の回復にはどのような視点や  
枠組みが必要なのかをパネリストの皆さ  
んと考えていきたいと思えます。

## 災害時に子どもと関わる際の注意点

安部 まずは、災害時に子どもと関わ  
る際に気を付けるべき点について、お一  
人ずつお答えください。

福地 支援する側は「何かしなくて  
は」と意気込まず、やりすぎないことが  
とても大事です。子どもにも心の回復力  
がありますので、その力を妨げず、周囲  
は見守り、「自分がどのように回復して  
いくのか」を子どもたちに選んでもらう  
意識が大切だと思います。

西田 何か役に立ちたいと思つて被災  
地に来てくれた方から「準備してきた遊  
びで子どもが遊んでくれませんか」とい  
う相談があったのですが、「役に立ちたい」  
という気持ちはごく自然ですがともする  
と焦点が自分の気持ちに向いていて、子  
どもの気持ちと焦点がずれる可能性もあ  
ります。「何をしてほしい」か、子ども  
たちに教えてもらえる関係性を築くこと  
が大事だと思います。

渡辺 多くの子どもにとって、知らな  
い大人とコミュニケーションを取るのは  
とても大変なことです。支援する大人は  
無理やり言葉を引き出すのではなく、待  
つてあげることが大事だと思います。適

切な距離感で接することで、子どもは信  
頼感と「自分は見守られているんだ」と  
いう安心感を覚えます。

安部 福地さんに質問です。まだ気持  
ちを正確に表すことのできない子どもに  
対し、気持ちや意見に沿った支援を行う  
にはどうしたらいいのでしょうか。

福地 言葉で表現できなくても遊びの  
中で気持ちを再現したりするなど、本人  
が意図せずとも現れてくることがありま  
す。それを少しずつ解釈し、子どもに確  
認しながら、その子との関わり方を見付  
けていくことが大事かと思えます。

安部 西田さんへ、被災後の教育現場  
で学校行事を行う上での配慮など、アド  
バイスをお願いします。

西田 まず、クラスにどのような子ど  
もがいるのかを把握する必要があります。  
その上で、防災教育で津波など刺激の強  
い映像を見せる場合もありますので、そ  
のことを事前に知らせて、見るか見ない  
か、その時々で子どもが選べる環境を整  
えることも大事かと思えます。

安部 渡辺さんに質問です。子どもの  
学習機会を守るために、地方公共団体な  
どに相談しやすい環境が必要だと思いま  
すが、どういった配慮が必要ですか。

渡辺 前提として、日本の困窮はほと  
んどが自己責任ではありません。ワーキ  
ングプアの方も多くいます。「あなたが

悪いのではない、安心して御相談ください」というメッセージの発信は大切だと思えます。また、日本の学校では授業で使う道具を家庭で用意したりしますが、持ってこない子を「忘れ物をする悪い子」と捉えるのではなく、困窮で用意できない家庭があることも念頭に置き、貸出しを行うなど、子どもが安心して通える学びの場を作っていたいただきたいです。

### 子どもたちのために、一般市民ができること

**安部** 最後は、避難所でも平時においても、専門家ではない一般市民が子どもたちにできることは何でしょうかという質問です。

**福地** 避難所では、回りの大人は子どもたちが遊べる環境を作り、その中で子どもたちがどのような遊びを選ぶのかを見守ってほしいと思います。また、口頃から自分たちのコミュニティの土壌を耕すことも必要です。地域のつながりは保護者のメンタルヘルスにもつながりますので。

**西田** 保護者が亡くなるということは、残された子どもに対してまなざしを向ける人がいなくなるとも言えます。避難所でも地域の中でも、複数で大人が横のつながりや子どもへの関心を持って、向けるまなざしの質と量を増やしてほしいです。

**渡辺** 福地さんと西田さんの意見を踏まえようと、大変なときはできるだけ親子が一緒にいられるよう、飛行機の優先搭乗のような考え方を避難所や行政手続でも取り入れてフォローできれば、親も子ども安心できる社会になると思います。

**安部** 皆さんのお話を伺いながら、専門家の支援以外にも、地域で子どもの声を聴いたり気持ちを受け止め続けることが非常に重要だと感じました。だからこそ、私たち一人一人が子どもの権利は何かを知る必要がありますし、子どもの声の受け止め方に正解はありませんので、子どもとともに引き続きみんなで考えていけたらと思います。パネリストの皆様、ありがとうございました。

### トークショー

#### 熊本県における災害と

#### 子どもたちの心の復興について

ゲスト…巻 誠一郎

(特定非営利活動法人

ユアアクション理事長、

元サッカー日本代表)



聞き手…景山 聖子  
(総合同会)

**景山** 現役引退後から3年の年月を支援活動などに尽力されている巻さんです

が、そのきっかけはやはり、生まれ故郷の熊本で起きた地震なのでしょうか。

**巻** はい。当時(2016(平成28年)は現役の手前で、地元のロアソフ熊本でプレイしながら子どもたちへサッカー指導も行っていました。被災時も指導の最中で、普段は元気な子どもたちが、それまで見たこともない表情で怖がっていた姿が、今でも脳裏に焼き付いています。

**景山** 熊本地震の後、具体的にはどのようなことをなさいましたか。

**巻** まずは物資の支援といった、家族や近所の方、友人に寄り添えるような活動ができなかつたかと思う、友人を介して全国に発信しました。すると、想像以上に皆さんから物資が集まり、支援の輪が大きくなっていきました。そこから少しずつ協力者を増やして、200名ほどのコミュニティグループをLINEで作って、物資運搬を本格的に始めました。全国から届いた1千トンの物資を配りに、避難所、小学校、中学校と合わせて1日5か所ほど、3か月で300か所程度を回りました。

**景山** 物資を運ぶ中で、心に残っている出会いや出来事はありますか。

**巻** やはり、子どもたちのことです。避難所は走り回ったり、大声を出せる環境ではなかつたので、子どもたちもストレスが溜まっていた。そんな中で一



緒にサツカーをしたのですが、子どもたちがめっちゃくちゃ喜ぶのです。そして、それを見た大人の方々も笑顔になる。避難所におじいちゃん、おばあちゃんもその様子を見て来て、さらに笑顔が増える。その笑顔の循環が、すごく印象に残りました。

**景山** この支援活動が大きくなって、現在ではNPO法人ユアアクションとして活動されていますが、この経緯をお聞かせください。

**巻** 「ユアアクション」には、「一人一人が自分にできるアクションをしましよ、あなたのアクションは何ですか」という、問い掛けを入れました。僕自身はサツカー選手だったので、子どもたちに夢を与えるという部分で一番力を発揮できました。次の僕のアクションとして、子どもたちの夢をサポートするNPO法人を立ち上げました。

**景山** 具体的にどのような活動をされているのでしょうか。

**巻** 地域活性化やより良い地域作りにも子どもたちの活力はとて大切だと思うのですが、熊本地震時は経済面など様々な理由で夢を諦める子どもがたくさん出てきました。ですので、まずは子どもたちに夢を持ってもらう、そしてその夢を叶えるためのチャレンジやアクションを起こしてもらいたい。そのための講演を

始め、夢を育むための様々な教育的メニューを作る活動をしています。

**景山** 2020（令和2）年7月、熊本県は豪雨災害にも見舞われましたが、このときも避難所を回られたそうですね。

**巻** そのときは豪雨災害に加えてコロナ禍で、なかなか熊本県外の人が被災地に入れなかつたのですが、熊本地震時のコミュニティ作りが非常に役立ちました。豪雨で氾濫した球磨川にはラフティング協会がありました。その協会は川のことをなんでも分かっています、そういう方と協力することで、孤立者の洗い出しや直接的な支援など、現地の方が現地の方へ、自分たちで支援できるような仕組みを作りました。

**景山** 生まれ故郷、熊本県に対する思いと、今後のユアアクションの活動についてお聞かせください。

**巻** 熊本は度重なる災害によって、多くのものが失われて、壊れました。ですが、元に戻すだけじゃ悔しい。今まであったものよりも良い地域を作りあげていきたいなど、少しでもその役に立てればと思っています。ユアアクションを地域に根付かせ、寄り添いながら、見えていない課題を見つけて解決する。サツカーで培った経験を活用して、地域や地元の方々に還元していきたいと思っています。

**景山** 私たちが日頃からできる災害へ

の備えや、子どもの最善の利益のために私たち一人一人が災害時にできる支援について、巻さんが活動を通して気付いたことを教えていただけますか。

**巻** 熊本での災害時、上手く支援が行き届いている地域と、なかなか支援が行き届かない地域がありました。何が大きな違いかというと、普段からのコミュニティの関係性です。隣の人と挨拶をするとか、何気ない会話ができている地域であるか否かで大きな差がありました。まずは挨拶から、つながりを持つことが大切かなと思っています。それと、支援は継続的にやることに意味があつて、無理をせず自分のできる範囲で行うことが大事だと思いました。忘れずに寄り添い続けることや、その後どうなったか情報を取りに行くことも支援だと思います。

**景山** 最後に、シンポジウムを視聴してください。最後の方にメッセージをお願いします。

**巻** 今、このお話を聞かれている皆さんは、何かしら興味・関心があつて情報を取りに来られている方々だと思います。自分が得た情報や持っている思いを、多くの人に伝えることも大切だと思います。人権や災害について普段から話していたら、と、とんとん輪が広がっていったら、小さな波から大きな波になると思います。